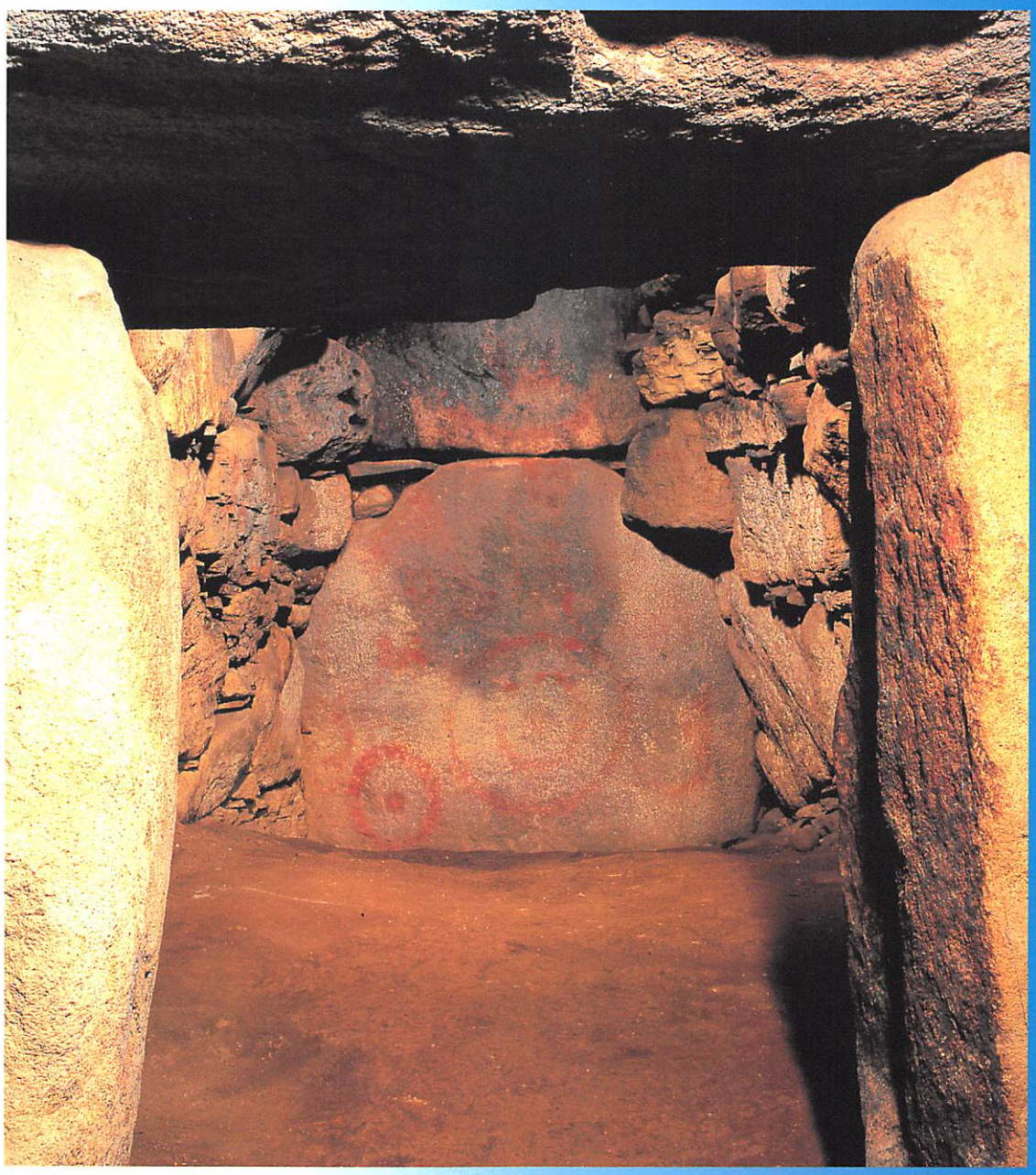
平成8年度後期企画展

全国の装飾古墳2

大分県の装飾古墳



玖珠町鬼塚古墳奥壁

熊本県立 装飾古墳館

ごあいさつ

熊本県立装飾古墳館では、
平成７年度より企画展「全国の装飾古墳」を
開催しております。
今回は、昨年の宮崎に続きまして、
第２回として大分県内の装飾古墳を
取り上げました。
古くは『豊の国』と呼ばれた大分県は、
九州東部に立地し、
東は瀬戸内海が広がり
西は九重連山を望む、
風光明媚な地として知られています。
こうした起伏に富んだ豊かな自然環境のなか、
古墳文化が華開きました。
今回、展示開催にあたって、
多くの関係機関、関係諸氏に
ご協力いただきましたこと
紙面をお借りして御礼申し上げます。

平成８年10月１日

館長
中島 武治

もくじ

ごあいさつ 1
もくじ・凡例 2
はじめに 3

1 大分の古墳時代

古墳の出現 4
横穴式石室と横穴墓 5
ひとびとの暮らし 6

2 装飾古墳の出現

日田盆地の装飾古墳 8
玖珠盆地の装飾古墳 18
別府湾沿岸の装飾古墳 23
大分平野の装飾古墳 28
国東半島の装飾古墳 30
宇佐平野の装飾古墳 34
中津平野の装飾古墳 40

3 装飾を持つ石棺と石人

臼杵の装飾古墳 41

4 おわりに

装飾古墳一覧 48
出品目録 50
撮影データ 52
参考文献 54
協力機関・協力者 54

凡例

- 本書は、熊本県立装飾古墳館・平成8年度後期企画展【全国の装飾古墳2】「大分県の装飾古墳」の展示図録として作成しました。
- 本図録の執筆・編集は坂口圭太郎が担当しました。本図録中の装飾古墳写真は大分県教育委員会のご厚意と協力のもと、九州歴史資料館の石丸洋氏撮影の写真を中心に掲載しました。
  なお一部の写真及び、本図録中の遺物は坂口圭太郎が撮影しました。
- 本図録に掲載されている実測図は関係報告書、関係図書、借用実測図より、複写、作成させていただきました。図面作成にあっては坂口圭太郎が担当し、中尾健照が協力しました。
- 図録に掲載した資料の一部を展示替えすることがあります。
- 展示の企画、展示資料、掲載写真について、多くの方々、関係機関のご指導、ご協力をいただきました。巻末に記し感謝の意を表します。

はじめに

ここに一枚の鏡があります。
この鏡を見てみなさんは、何を感じますか。
この鏡は、いわゆる
「卑弥呼の鏡」と呼ばれるものです。
正式な名称は、三角縁神獣鏡といい、
中国の魏より賜った100枚の鏡ではないかと
言われているものです。
一枚の鏡から、古代の王者の息吹を感じ取ってください。

宇佐市赤塚古墳出土獣文帯三神三獣鏡（レプリカ）（径 20.3 ㎝）

古墳の出現

古墳時代を象徴する前方後円墳の時代の幕開けとともに全国で、まるで競い合うかのように古墳が造られ始めます。大分県では、宇佐地方において、まず大型の前方後円墳が出現します。古墳時代以前より、豊かな平野部と豊後水道から得られる海産物を背景に勢力をもっていたこの地方が他の地域に先駆けて、大和政権と政治的結合を図ったと考えられています。ではいったいどのような形で古墳にあらわれてくるのでしょう。

ここにひとつの証拠があります。それは、三角縁神獣鏡と呼ばれる鏡の副葬を伴った前方後円墳の出現です。特に宇佐市の赤塚古墳出土の鏡は京都府山城町椿井大塚山古墳や、福岡県苅田町石塚山古墳と同じ鋳型から作られておりその配布ルートとともに大和政権との関係を考えるうえで興味深いものです。

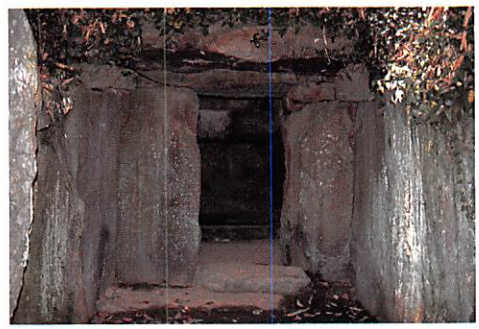
初期の段階では、宇佐地方に留まっていた古墳も５世紀にはいると、大分県内各地へ広がりを見せ、大分市亀塚古墳、臼杵市下山古墳、臼塚古墳など海部地方や、真玉町真玉大塚古墳、豊後高田市入津原丸山古墳などが国東半島西海岸で次々と造られていきます。

６世紀に入ると大分県内ではそれぞれの異なった地域で、特色のある墳墓が造られていきます。それは国東半島から西海岸沿岸の地域で見られる「横穴墓」の出現と日田盆地や玖珠盆地に造られる彩色系の「装飾古墳」です。

こうして、大分県内では、豊かで多彩な古墳文化が華開いていくのです。

宇佐市赤塚古墳全景

臼杵市臼塚古墳石棺



大分市千代丸古墳石室

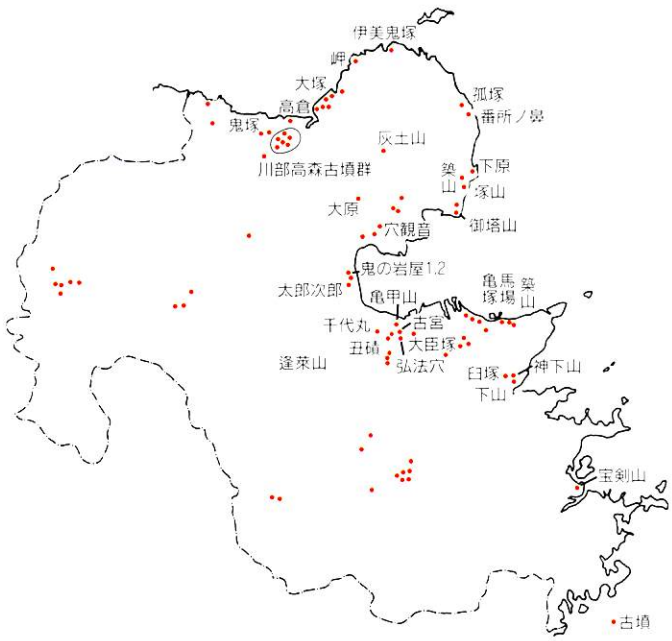


図１　大分県内の主な古墳

横穴式石室と横穴墓

5世紀にはいると大分県内でも横穴式石室が古墳の内部施設として採用されます。副葬品も、それまでの呪術的な鏡等に代わって、実用的な馬具や刀、鏃等の鉄製品が石室内に埋納され始めます。次に5世紀中頃に入ると豊後南部地域では大形の古墳が姿を消し、国東半島周辺へ勢力の中心が移ってくるようです。

6世紀にはいると、石室が巨大化します。このあたりの変化は畿内と同じ流れで、興味深いものです。しかしこの時期、国東半島周辺部では大形の古墳は造られておらず、勢力の中心は大分平野と日田・玖珠盆地を中心とした地域に移っていくようです。また、この頃、新しい埋葬の在り方が出現してきます。それは古墳時代を形成する社会の成熟の現れと考えられています。このような集団が造った墳墓が「横穴墓」と呼ばれているものです。

巨大な墳丘を造らず、巨石を用いないこれらの横穴墓群は、大分県内では宇佐地方を中心に広がりを見せます。

現在は4市6町村にまたがって確認されていますが、今後事例が増えることが予想されます。

このように様々な社会情勢の変化のなか、7世紀末には他の地域と同様徐々に古墳は消えていきます。

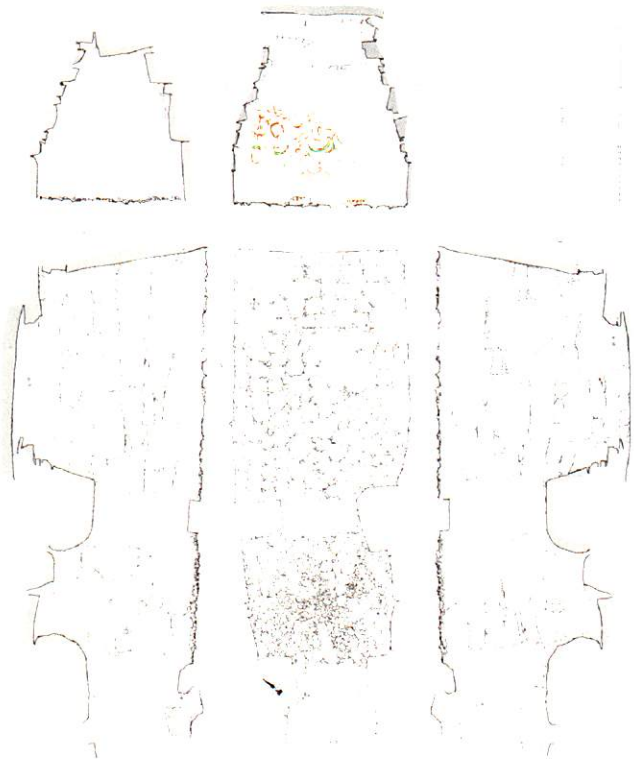


図2　日田市ガランドヤ1号墳石室実測図

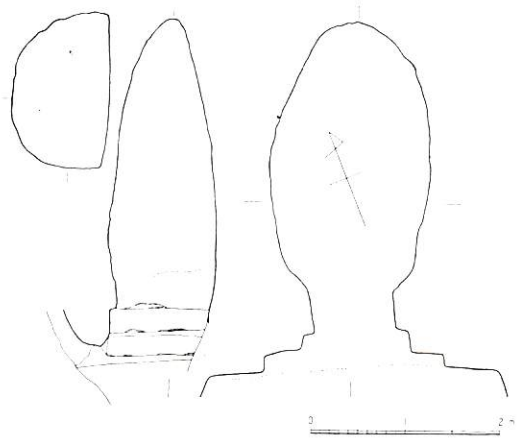
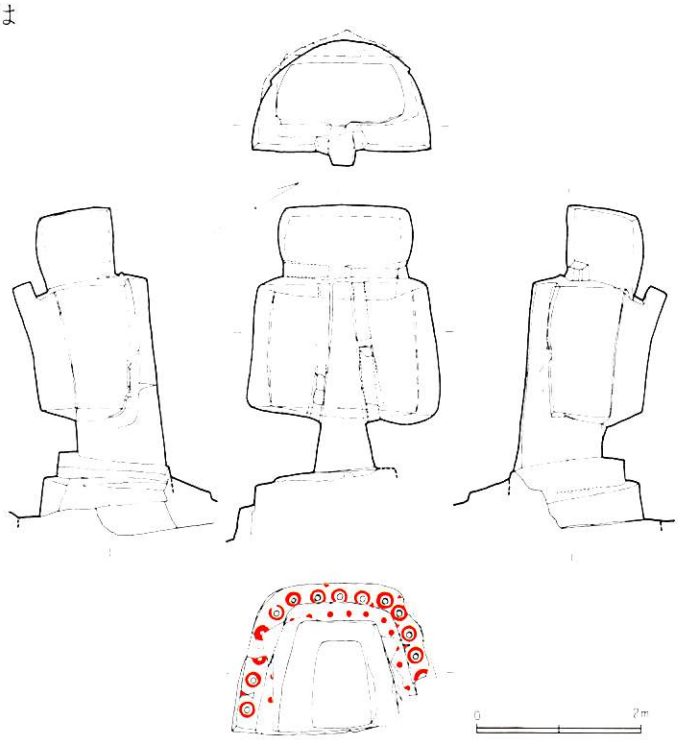


図3　宇佐市一鬼手横穴墓群62号墓実測図



参考資料　図4　玉名市石貫ナギノ横穴墓群6号墓実測図

ひとびとの暮らし

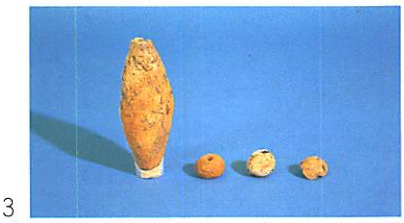
ここに一群の土器があります。様々な形、大きさいずれも、古墳時代の6世紀後半に、大分県宇佐市葛原遺跡に住んでいた人々が日頃、生活の中で使っていたものです。この遺跡は、圃場整備に伴い、昭和52年に調査が行われ、竪穴住居18軒、不定形の土壙6基、掘立柱建築遺構等が確認されています。

今回展示しているものの中で、注目されるものは土製の錘です。これは海に出て魚を捕る網の錘として使われていたもので、米を蒸すための甑や田を耕すための鉄製鍬先の出土品から分かるように、米を主食にしていた集落でも、海に近い環境から漁をおこない様々な海産物を食料にしていた当時の葛原遺跡の人々の豊かな暮らしぶりが想像できます。この他にも蛸漁のための蛸壺も見つかっています。

2 甑

6 ジョウロ形土器

3 土師器


7 土錘・土製玉

4 土師器

8 鉄製鋤先

5 須恵器

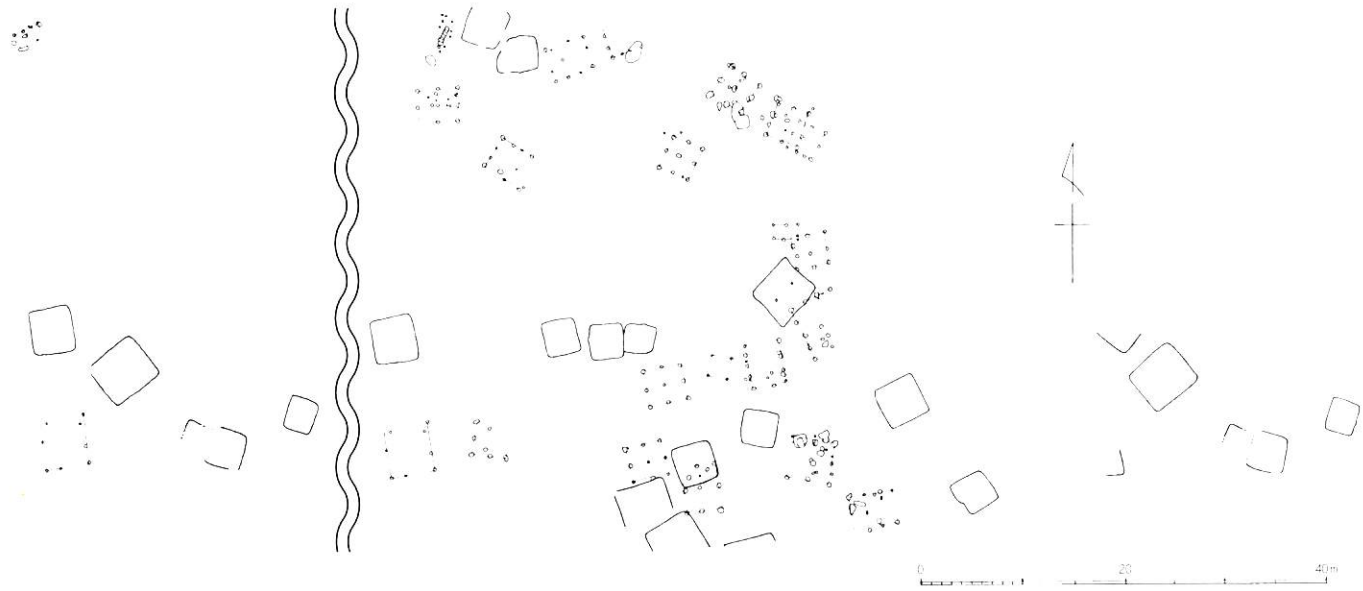


図5　宇佐市葛原遺跡遺構配置略図

2　装飾古墳の出現

装飾古墳の起源は、近畿、北陸、山陽などの地方で石棺の上蓋に直弧文や円文を彫刻する事例とされています。

ここ九州では、福岡県八女郡広川町の石人山古墳の石棺に施された装飾が最古と考えられています。その後、装飾は石棺から石室内部へと移っていくようです。特に5世紀後半から出現する石障系装飾古墳は、熊本県を中心に福岡県筑後地方まで広がりを見せています。6世紀にはいって、横穴式石室の流行にともない装飾古墳も大きく変容します。この時期の装飾古墳は福岡地方に多く出現し装飾も多様性をもちまさに装飾古墳の時代と言えましょう。また、装飾古墳はこの頃から、九州一円（除く鹿児島以南）へ広がりを見せ、そのまま終末期の古墳へつながっていきます。

大分県内では、5世紀に入って石棺系装飾古墳が佐賀関半島基部の臼杵市に出現します。このうち臼塚古墳・下山古墳には、石人が伴われており、その出現と併せて興味深いものがあります。

ついで、6世紀には日田・玖珠盆地に筑後川下流域の古墳の影響が強く現れている彩色系の装飾古墳が造られる一方、国東半島や大分平野にも他の系譜が考えられる横穴式石室内部に線刻が施された装飾古墳が造られています。これらの古墳はいづれもの地域的な繋がりに不明な点が多く、今後の研究課題となっています。

また、この時期には宇佐平野を中心とした地域で横穴墓が数多く造られ始め、そのなかで羨門の入り口部に装飾が施された装飾横穴墓が見られます。

しかし、発生要因や地域の限られる等の問題が多く残されており、今後調査による研究が期待されます。

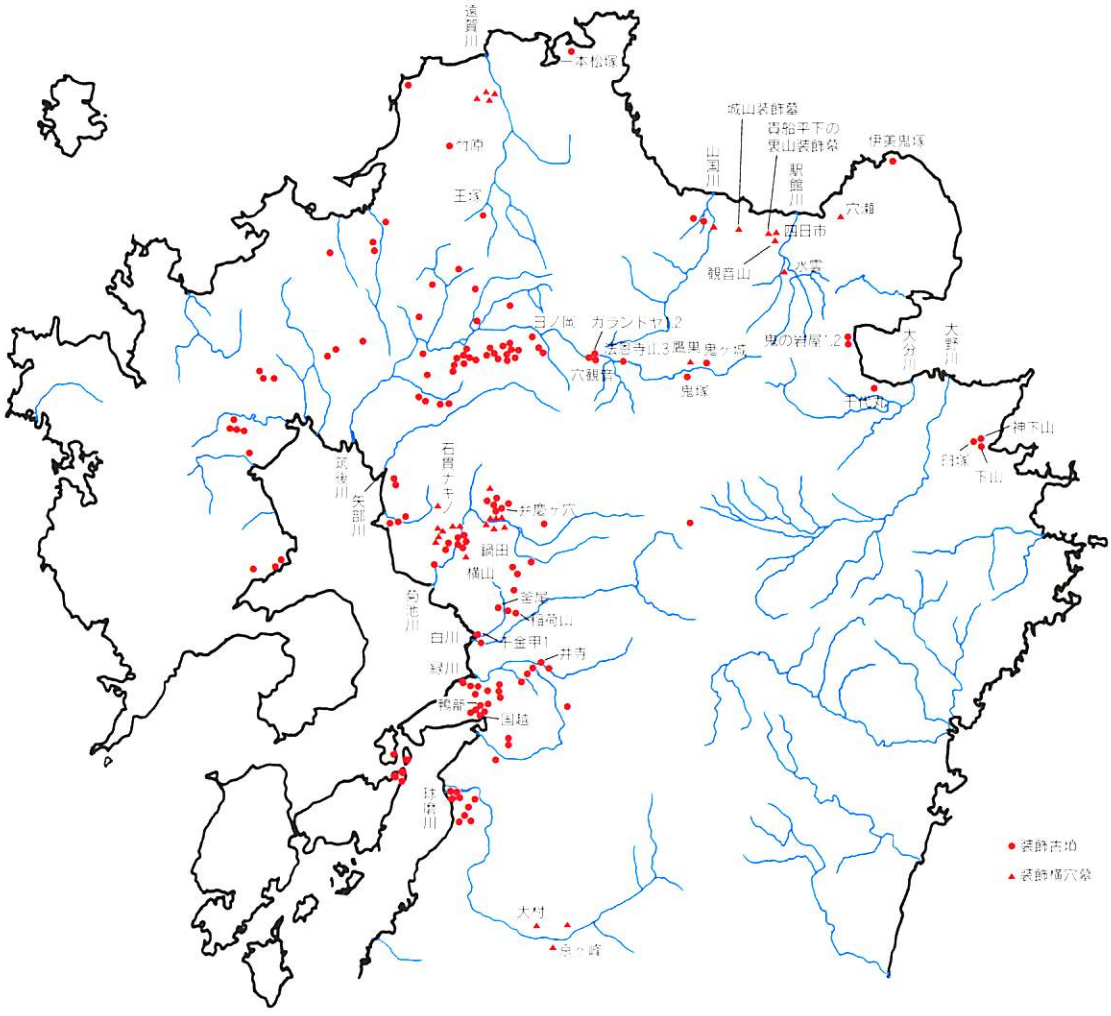
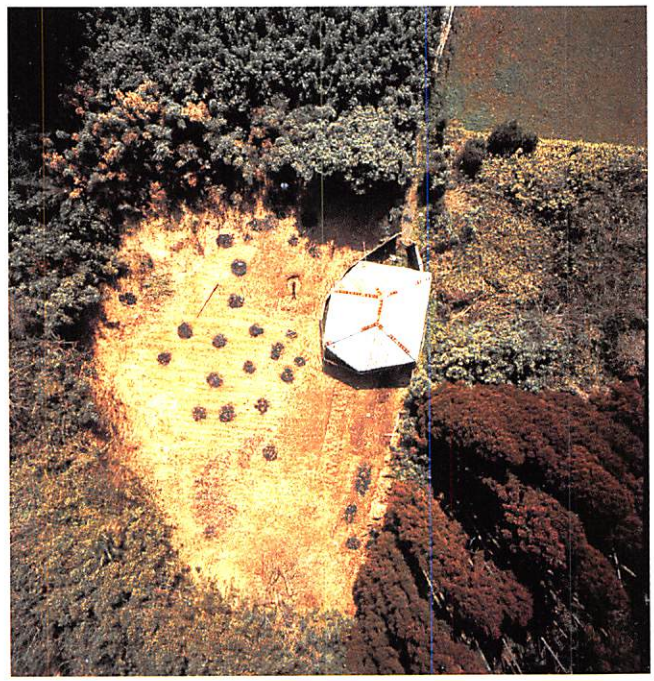


図6　北部九州における主要装飾古墳の分布　国立歴史民俗博物館編「装飾古墳の世界」より一部加筆・省略

日田盆地の装飾古墳

日田盆地は大分県の最西部にあたり、周囲を1000メートル級の山々に囲まれています。盆地の中央を東西に九州最大の筑後川が流れ、周囲の山々から流れ込む水に恵まれた豊かな水郷です。江戸時代には交通の要衝として代官所が置かれ、豊後の天領７万石を治めていました。

この地方は６世紀にはいって筑後川中下流域の影響を強く感じさせる４基の装飾古墳が確認されています。いずれも彩色系装飾古墳です。



穴観音古墳全景

ガランドヤ１号墳全景

法恩寺山３号墳全景

ガランドヤ２号墳

ガランドヤ古墳群（ガランドヤ１号墳・２号墳）

日田市ガランドヤ古墳群は３基で構成されており、三隅川左岸の低段丘上に造られています。このうち、１・２号墳に装飾が確認されています。

１号墳は、すでに墳丘が流失しており、石室のみが僅かに残るばかりです。石室の全長は8.5メートルを超え複室構造の横穴式石室です。出土遺物から６世紀後半に築造されたと考えられます。装飾は玄室奥壁一面に描かれており、赤と緑のコントラストが鮮やかです。絵は具象的で人物、馬、鳥、舟の他、Ｓ字状文、Ｘ字状文、蕨手状文が確認されています。また玄室の仕切石にも赤と緑で縦縞文様を描いています。福岡県浮羽郡に点在する装飾古墳に石室の構造と装飾の図柄の描き方が似ています。

出土遺物は須恵器、土師器、馬具類（轡・鞍金具・飾り金具・雲珠・辻金具など）、鉄鏃、弓金具、ガラス小玉、碧玉製管玉、耳環などがあります。

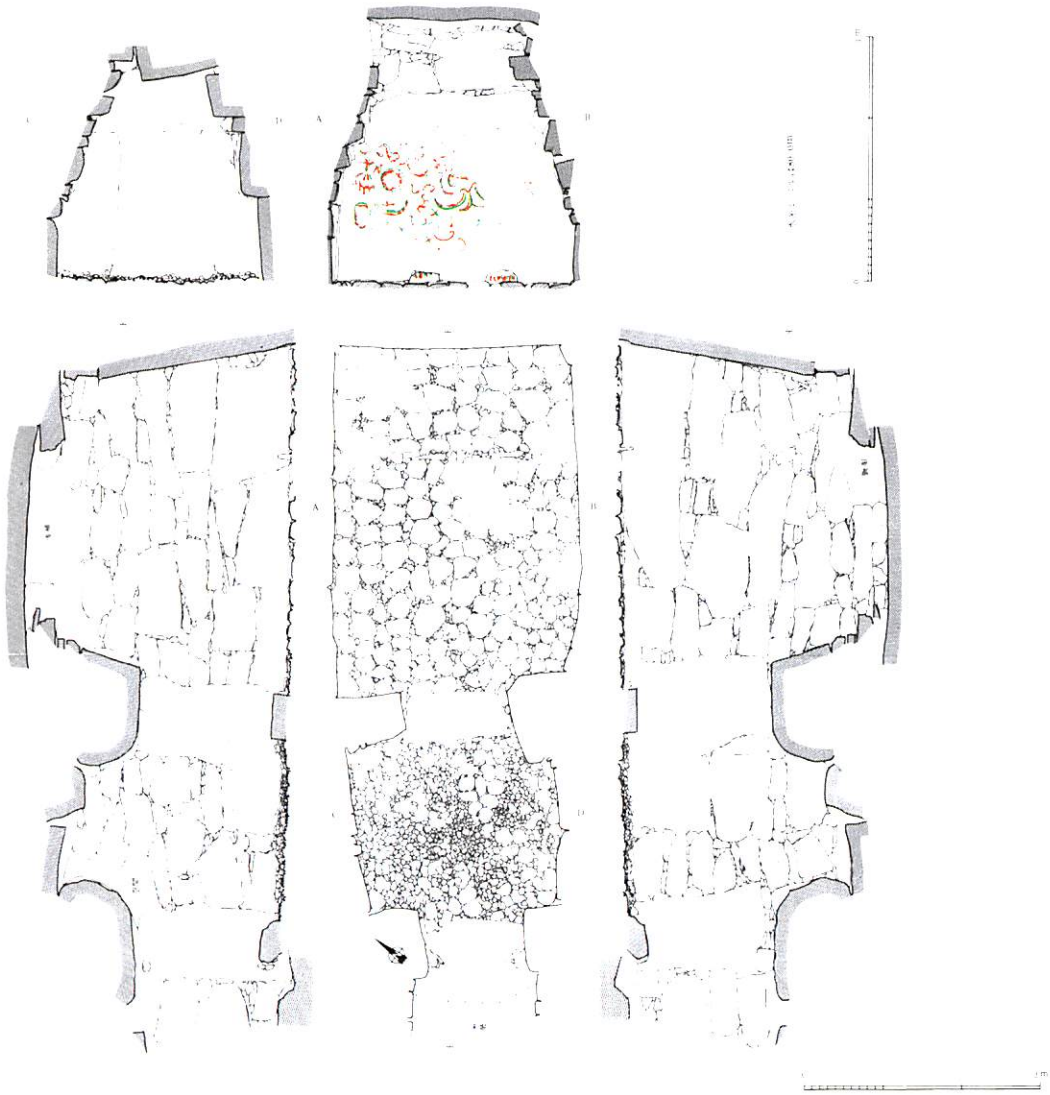


図７　ガランドヤ１号墳石室実測図

大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

9

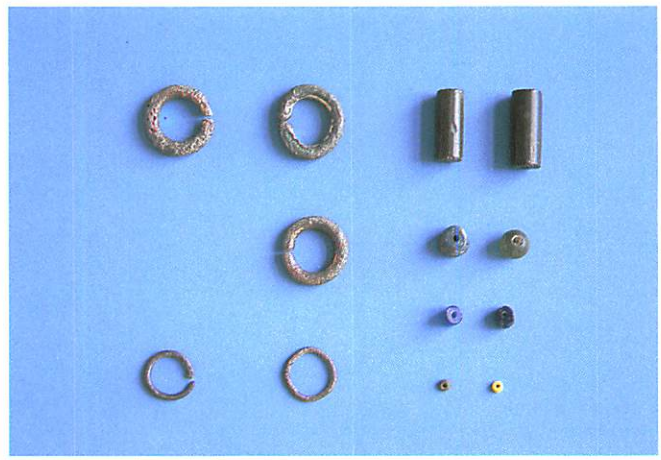
須恵器

11

鉄鏃

10

馬具



12

装身具

日田市ガランドヤ１号墳奥壁

日田市ガランドヤ１号墳奥壁（部分）

日田市ガランドヤ１号墳奥壁（部分）

日田市ガランドヤ１号墳仕切石（右側）

日田市ガランドヤ１号墳仕切石（左側）

2号墳は1号墳の北西に位置し、同じく三隅川左岸の低段丘上に造られています。

調査の結果、墳丘は径20メートル前後の円墳と報告されています。石室は全長7.5メートルで複室構造の横穴式石室と思われます。出土遺物から6世紀後半に築造されたと考えられます。近接した1号墳との時期差については昭和61年の報告書のなかで1号墳より先行して築かれたとの見解を示しています。装飾は調査によって奥壁で確認されています。玄室奥壁の全面を赤く塗彩した後、緑色で弓をひく騎馬人物、同心円文、連続山形文を描いています。磨滅がひどく、他の文様については確認ができていません。

出土遺物は須恵器、鏡、直刀、馬具類、鉄鏃、鉇、鑿、銅釧、耳環、玉類などがあります。

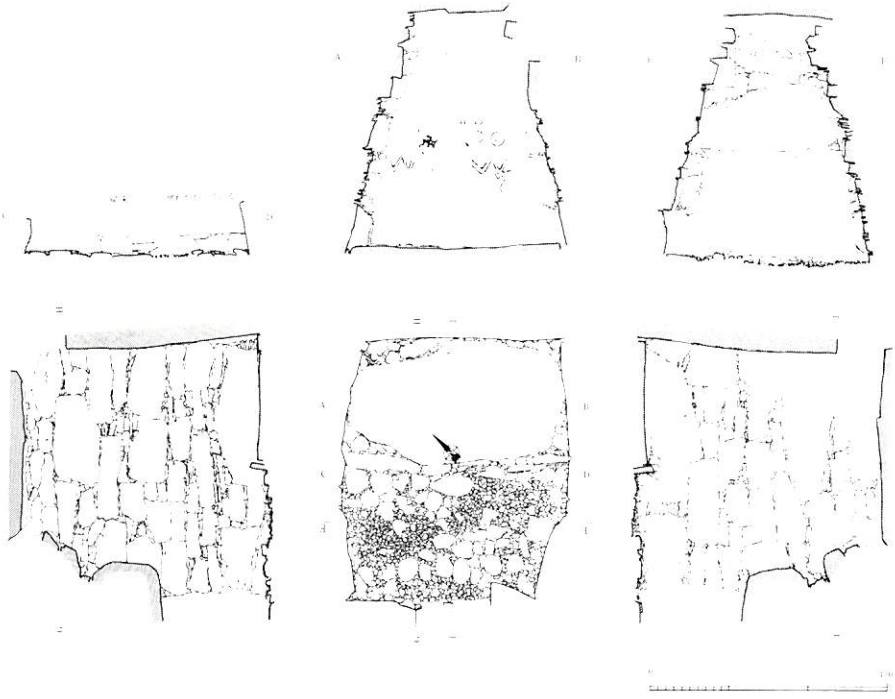


図8　ガランドヤ2号墳石室実測図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

13 須恵器（平瓶）

14 須恵器

15 馬具

16 鉇・平鑿

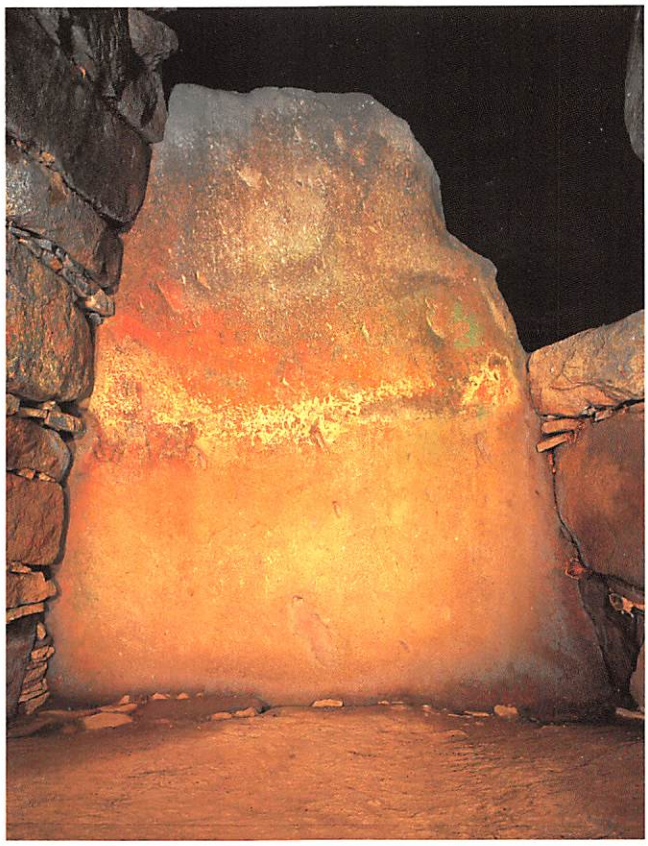
17 直刀

17 直刀（鍔部分）

18 鉄鏃

19 珠文鏡（径7.5㎝）

20 装身具



日田市ガランドヤ２号墳奥壁

日田市ガランドヤ２号墳奥壁（部分）

穴観音古墳

穴観音古墳は、法恩寺山古墳群の西南、筑後川の対岸小高い台地上に造られています。墳丘はかなり削平を受けていますが、平成５年度の調査で径12メートルの円墳と確認されています。羨道部が崩れていますが、石室は全長８メートルの複室構造の横穴式石室です。出土遺物がないため時代の特定はできませんが、石室構造から６世紀の終わりの頃に造られた可能性があります。装飾は赤と緑により彩られ奥壁には同心円文、連続山形文、飛鳥を描き、前室左右側壁には、舟、人物、波、同心円文を描いています。

奥壁の文様はかなり不明瞭ですが、同心円文のいくつかには中央から外へ向かって伸びる直線が描かれ、報告では車輪文様との見解がなされています。

図９　穴観音古墳墳丘測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

図10　穴観音古墳石室実測図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

穴観音古墳玄室（前室から望む）

穴観音古墳玄室奥壁

穴観音古墳玄室右側壁

穴観音古墳前室右側壁（部分）

穴観音古墳全室左側壁（部分）

法恩寺山古墳群

法恩寺山古墳群は、日田盆地北東の法恩寺山の頂部に全部で７基造られています。このうち装飾があるのは法恩寺山３号墳です。墳丘は径約12メートルの円墳と思われます。石室は全長８メートルの複室構造を持つ横穴式石室です。

装飾は赤で彩色されています。石室内部に点在する形で、飛鳥、馬、人物、同心円文、円文などが描かれています。

今回は参考資料として同じ古墳群の法恩寺山４号墳出土の遺物を展示します。

図11　法恩寺山古墳群全体図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

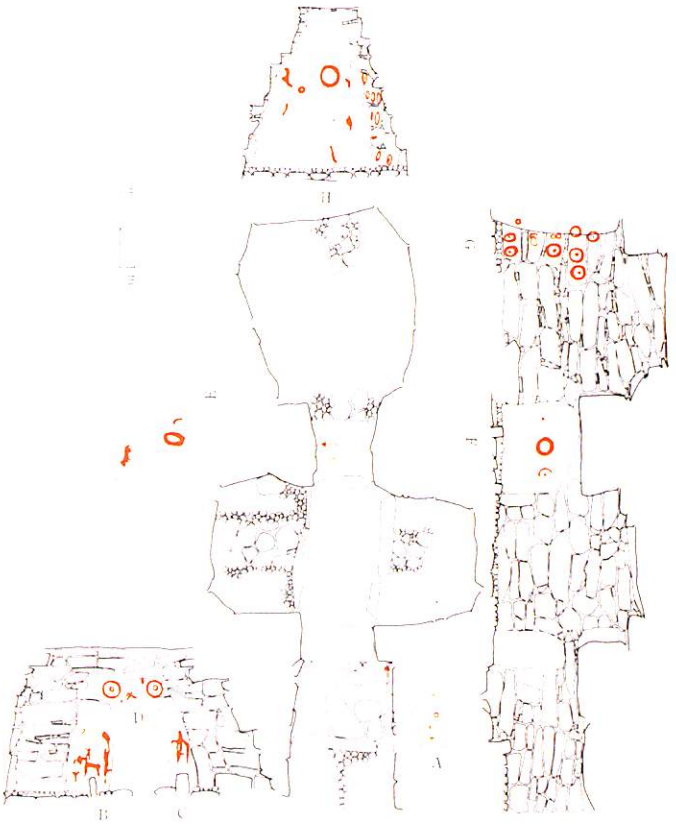


図12　法恩寺山３号墳石室実測図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

—参考資料　法恩寺山４号墳出遺物—

須恵器　21

須恵器（脚付壺）　22

須恵器（提瓶）　23

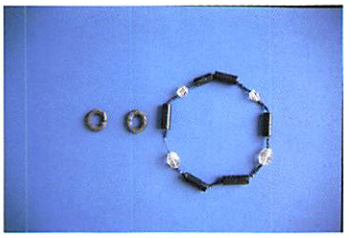
須恵器（提瓶）　24

馬具　25

馬具（鈴雲珠）　26

直刀　27

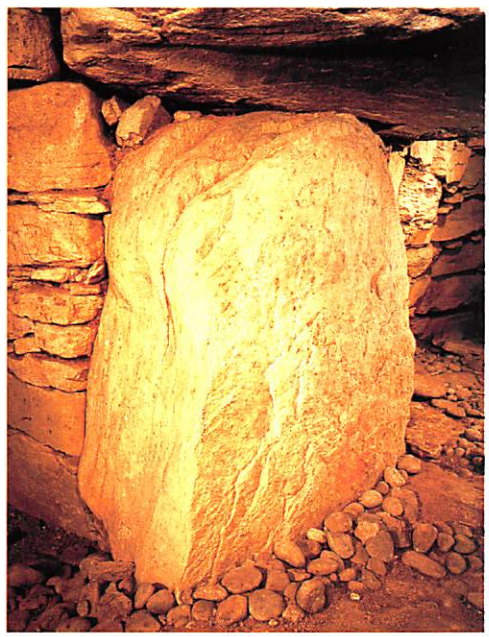
玉獣鏡　28



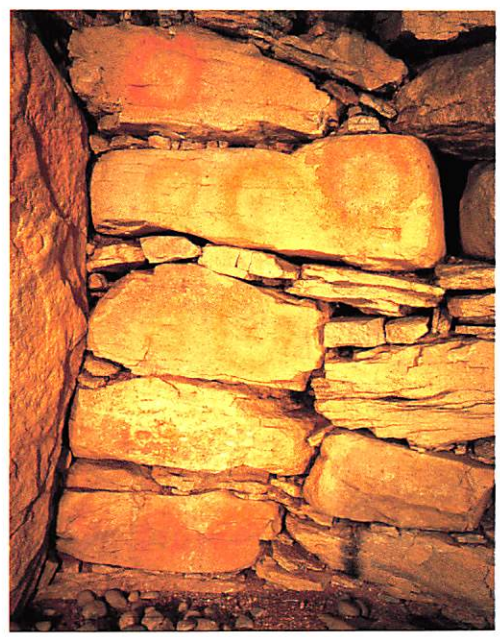
装身具　29

法恩寺山３号墳前室から玄室を望む

法恩寺山３号墳奥壁



法恩寺山３号墳玄室右側壁



法恩寺山３号墳玄室右側壁

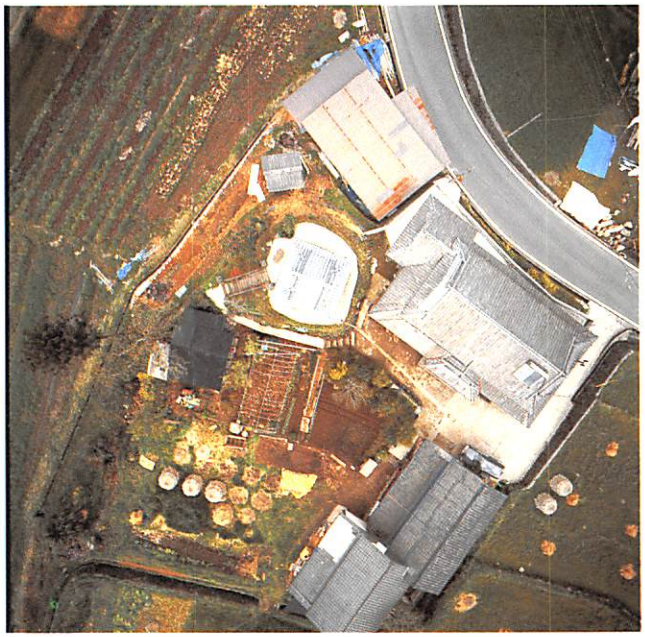
法恩寺山３号墳まぐさ石

玖珠盆地の装飾古墳

玖珠盆地は九州最大の河川である筑後川上流の玖珠川が緩やかに流れており、日田盆地に隣接しています。周囲を山々に囲まれている点は日田盆地と同じですが、メサと呼ばれる山頂部が平らになった台地群に囲まれ独特の景観を見せています。

この玖珠盆地には現在３基の装飾古墳が確認されています。しかし、彩色系装飾古墳の鬼塚古墳と線刻系装飾古墳の鬼ヶ城古墳と装飾横穴墓の鷹巣横穴墓群４号墓と全く異なった形態を持つため、その系譜など現在良く分かっていません。

鬼ヶ城古墳正面



鬼塚古墳全景

鷹巣横穴墓群全景

鬼ヶ城古墳

鬼ヶ城古墳は玖珠川の北側、標高410メートルの丘陵上に造られています。平成５年度の調査で周溝は確認できませんでしたが、現存する墳形から円墳と考えられます。石室は現存長４メートルの複室構造を持つ横穴式石室です。石棚を持っており、線刻による装飾ということで、大分市の千代丸古墳との類似点が指摘されています。装飾は後室左袖石側面に見られ、線刻で飛鳥、動物、木の葉を描いています。

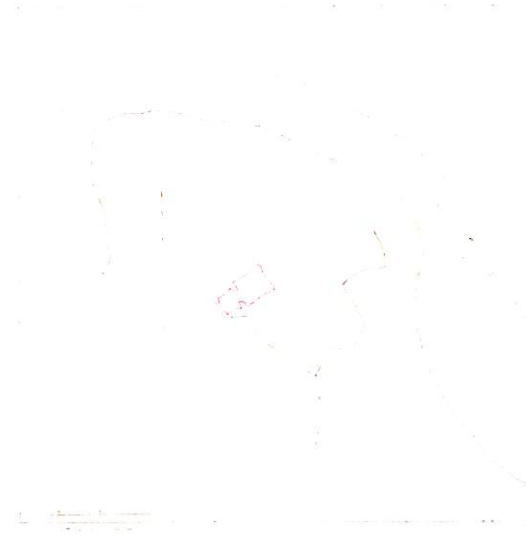


図13　鬼ヶ城古墳墳丘測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

鬼ヶ城古墳

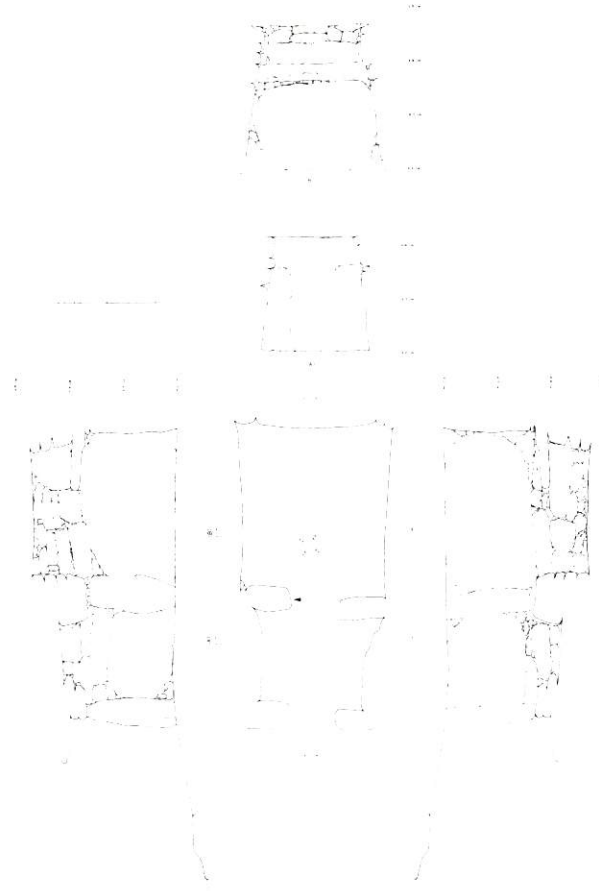
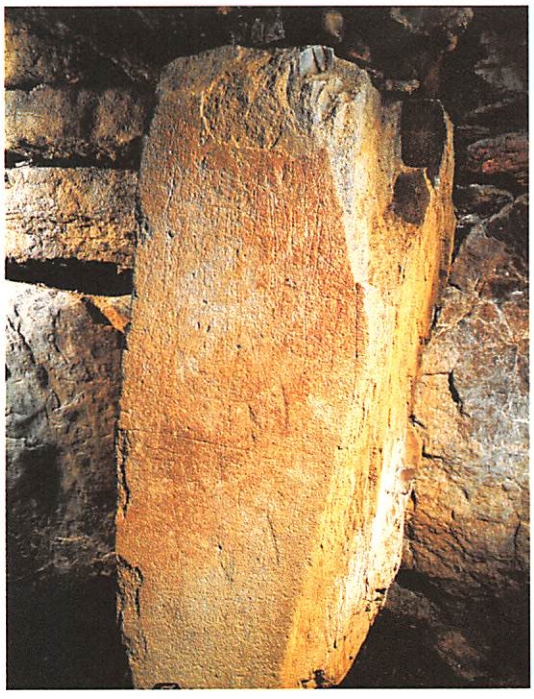


図14　鬼ヶ城古墳石室実測図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載



鬼ヶ城古墳玄室左側壁

写真は袖石側壁の写真です。片方だけにこのような彫刻を施した理由は不明です。

鬼塚古墳

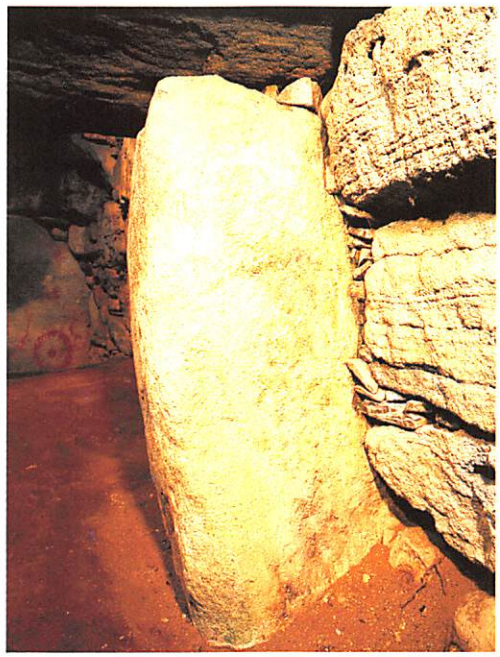
鬼塚古墳は切株山西麓の扇状地の小高い丘陵上に造られています。墳丘は削られているので全体の形はよく分かっていません。石室の現存長6メートルで複室構造を持つ横穴式石室です。出土遺物がないため、築造年代もはっきりしませんが、石室の形態から6世紀後半頃と考えられています。装飾は4ヶ所で確認されています。装飾は赤で玄室奥壁中央部に大形の同心円文が、上部には舟を表した弧状の文様が描かれています。舟の上は円文が一つ描かれています。大形の同心円文の周辺に小形の同心円文や円文、意味不明の文様が描かれています。左右側壁にも同様の円文、同心円文が描かれています。また、右側袖石には穴観音古墳で見られたような車輪状文と円文が描かれています。

図15　鬼塚古墳全体図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

鬼塚古墳玄室

鬼塚古墳前室から玄室を望む

図16　鬼塚古墳石室実測図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載



鬼塚古墳玄室右側壁

鬼塚古墳玄室右側壁（部分）

鬼塚古墳玄室玄室左側壁（部分）

鬼塚古墳玄室左側壁（部分）

鷹巣横穴墓群４号墓

鷹巣横穴墓群は森川右岸の台地の南側の崖面に造られています。1991年に調査がおこなわれ、14基の横穴墓が確認されましたが、そのうちの１基に装飾がありました。装飾のある４号墓の平面プランは奥が末広がりになるこの地方ではよく見られる形で天井部が三角形になっています。出土遺物から７世紀初頭に造られた事がわかっています。

装飾は奥壁と側壁に楕円状の円文が僅かに認められます。仕切石にも三角文と蕨手文があったとされますが、図形が明瞭でないため詳細は不明です。

出土遺物は馬具類、鉄鏃、刀子、銅釧、耳環、ガラス玉があります。また、前庭部より墓前祭祀に用いたとみられる、須恵器、土師器などが出土しています。

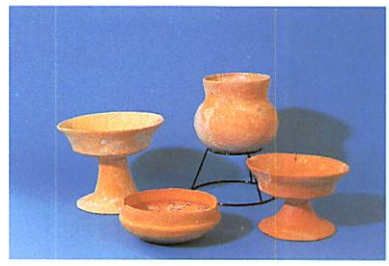
図17　鷹巣横穴墓群全体図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

図18　第４号横穴墓測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

鷹巣横穴墓群４号墓奥壁

30
須恵器（前庭部出土）

鷹巣横穴墓群４号墓右側壁



31
土師器（前庭部出土）

32
鉄鏃

33
㊂３号墓出土鉄鏃

34
馬具

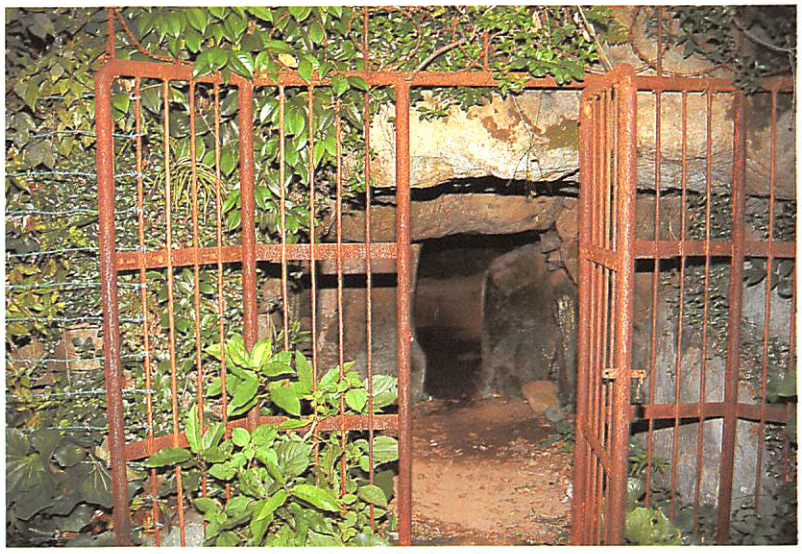
35
装身具

別府湾沿岸の装飾古墳

別府湾沿岸には２基の装飾古墳があります。別府市の鬼の岩屋古墳群は近接していますが、石室構造や装飾の方法に共通点が少なく謎も多い古墳です。

今回は参考資料として鬼の岩屋古墳群周辺から出土した遺物を展示しています。これらの遺物は、工事に関連して出土したもので、２基以外にも古墳が存在したことが考えられます。

鬼の岩屋１号墳



鬼の岩屋２号墳

―参考資料　鬼の岩屋古墳群周辺出土遺物―

36

鬼の岩屋古墳群

鬼の岩屋古墳群は別府市の南西に位置する標高30メートル前後の扇状地に造られています。両古墳とも巨石を用いた横穴式石室です。

鬼の岩屋１号墳

鬼の岩屋１号墳は、平成５年度の調査で径24メートルの円墳と確認されています。石室は奥室に据え付け形の石棺をもった複室構造の横穴式石室です。石室の全長は7.7メートルを測ります。平成５年度の調査のトレンチで須恵器の甕の胴部片が出土しています。この遺物から６世紀末頃造られたと考えられます。

装飾は石室全面を赤で彩色してその上から黄色で装飾を描いています。前室右側壁に黄色で山形文を連続して描いています。袖石の前面には黄色で靫、鞆、弧状文を、黒色で弧状文をＳ字状文を描いています。

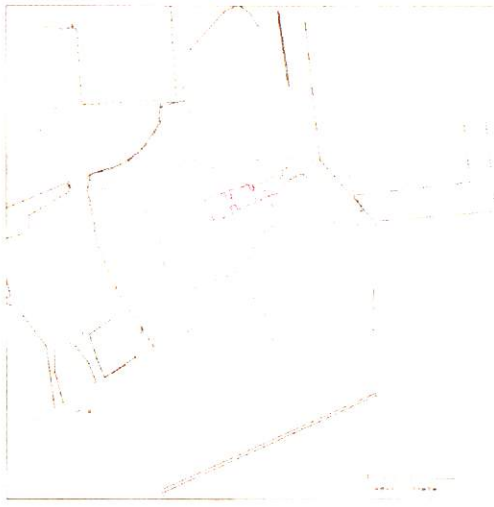


図19　鬼の岩屋１号墳墳丘測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

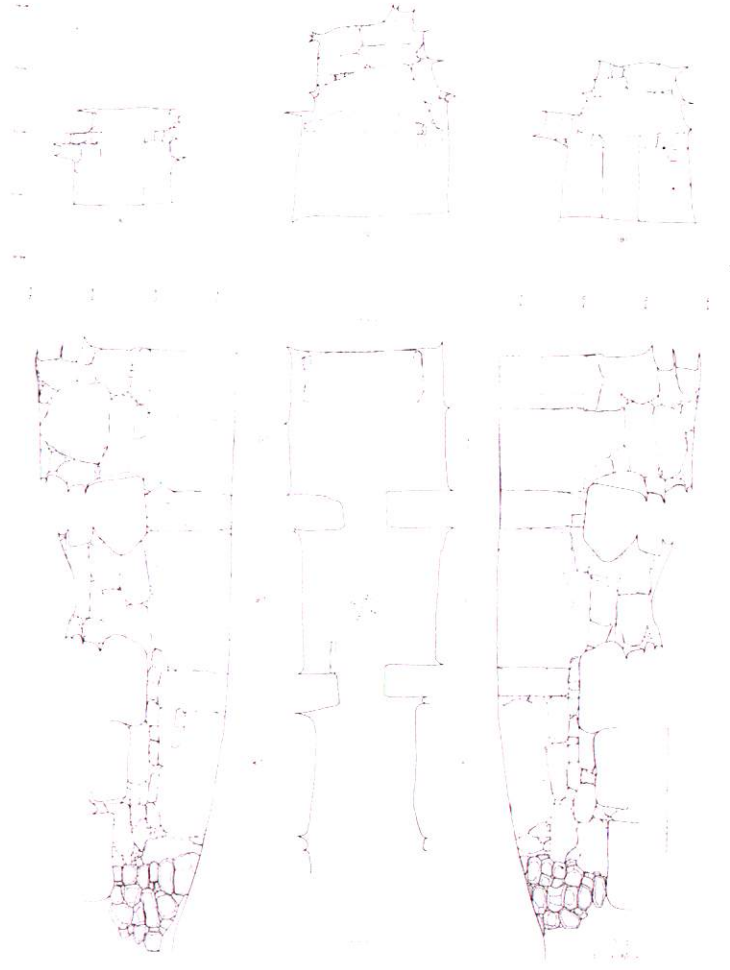
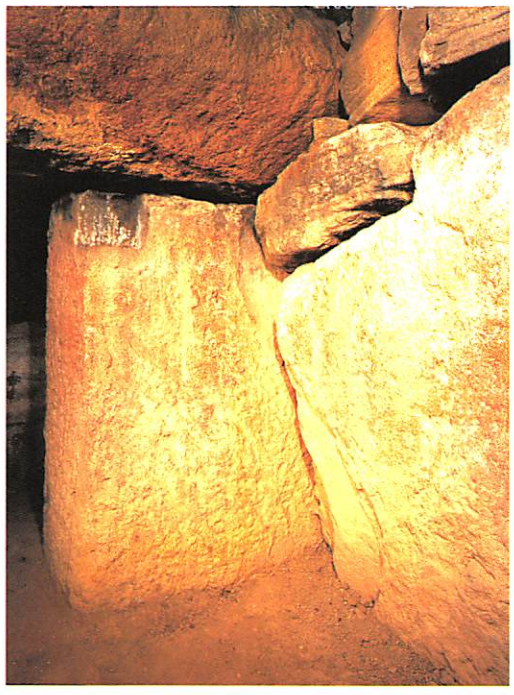


図20　鬼の岩屋１号墳石室測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

鬼の岩屋１号墳前室から後室を望む



鬼の岩屋１号墳右側壁

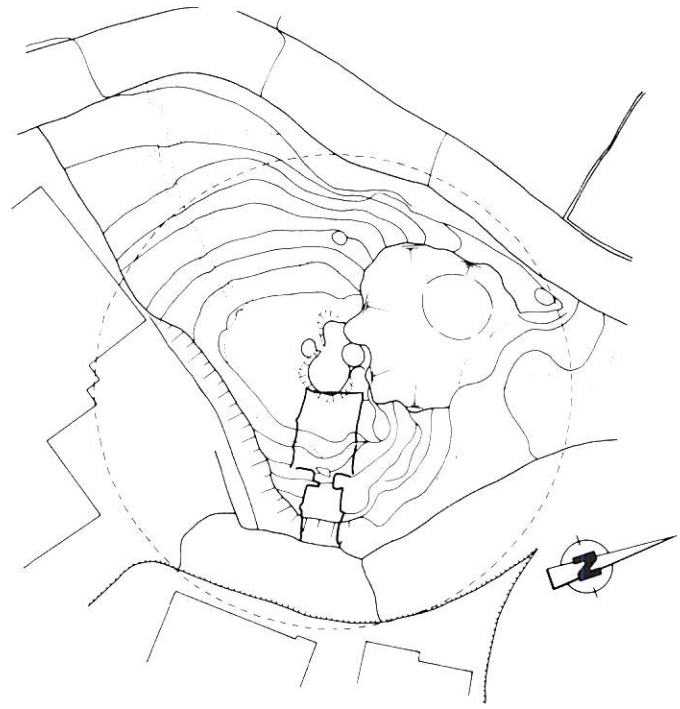
鬼の岩屋１号墳右側壁

鬼の岩屋１号墳前室右側壁

鬼の岩屋２号墳

鬼の岩屋２号墳は１号墳の南西100メートルに位置します。墳丘は削られているので、全体の形はよく分っていません。石室は巨石を用いた単室構造の横穴式石室で全長８メートルを測ります。昭和49年の調査で須恵器の坏が石室内で見つかっておりこの遺物から６世紀後半に造られたと考えられます。

装飾は、１号墳と同様に石室全面を赤で彩色してその上から黒色で文様を描いています。装飾は多様で意味不明のものも多く見られます。そのなかで主だった文様は馬や双脚輪状文の脚、蕨手文などがあります。また屍床正面に彫り込みが見られ、大分県の報告書では邪視文とされています。また左右にも文様が認められましたが、何を表わしているのか確認できませんでした。



（コンタは50cm間隔）

図21　鬼の岩屋２号墳墳丘測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

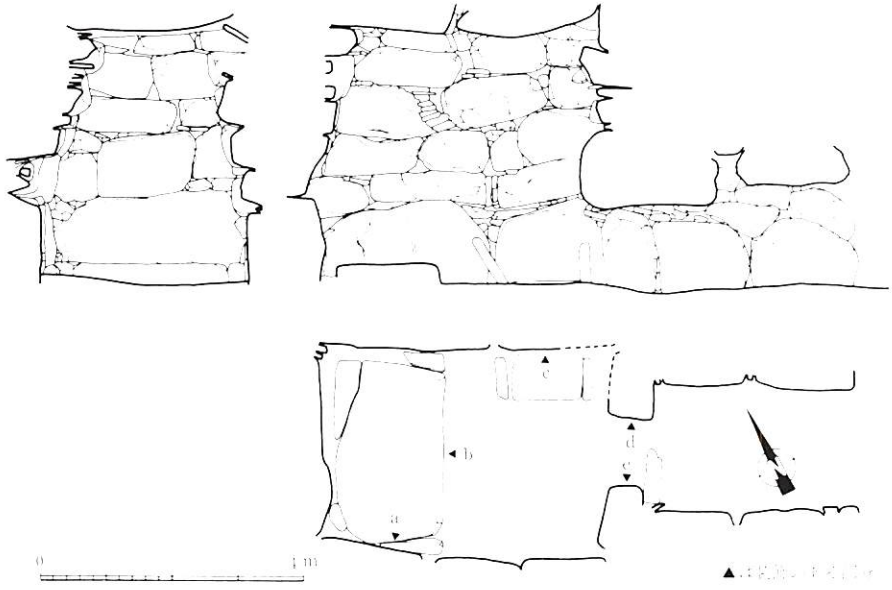


図22　鬼の岩屋２号墳石室
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

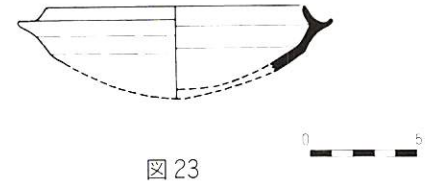
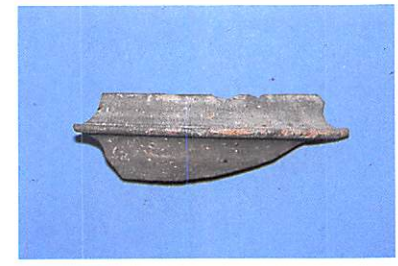


図23

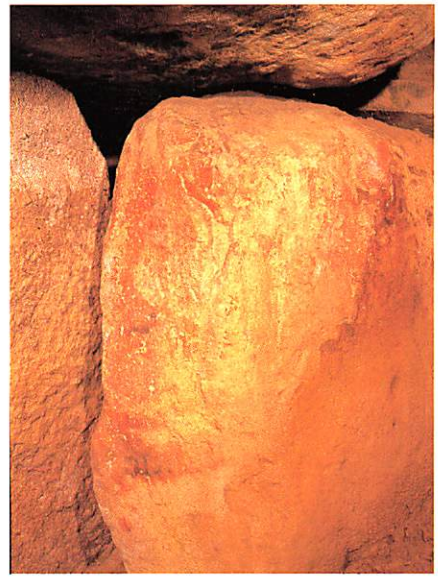


鬼の岩屋２号墳出土須恵器（杯身）

鬼の岩屋２号墳玄室屍床

鬼の岩屋２号墳玄室右側壁

鬼の岩屋２号墳玄室左側壁



鬼の岩屋２号墳左袖石

鬼の岩屋２号墳左袖石（部分）

鬼の岩屋２号墳

鬼の岩屋２号墳屍床（部分）

大分平野の装飾古墳

大分平野もまた宇佐平野とともに古墳時代に栄えていたところです。平野内を大野川が流れ、大分県では良好な穀倉地帯として重要な位置を占め、戦国時代には大友氏の拠点として栄え現在に至っています。

千代丸古墳

大分市千代丸古墳は、玖珠町の鬼ヶ城古墳と同様の石棚を持つ装飾古墳です。

大野川の支流、賀来川の河岸段丘上に造られています。墳丘は円墳と考えられています。石室は全長8.4メートルの単室構造の横穴式石室です。遺物が出土していないため正確な築造年代は分かりませんが、石室構造から7世紀初頭まで下ると考えられています。

装飾は石棚の前面に線刻で描いています。文様は連続する三角文を描きその間に方形文と人物、動物を描き加えています。報告書では線刻の窪みに赤色顔料が確認されており、石室内全体を赤で彩色していた可能性があります。

大分市千代丸古墳全景

図24　千代丸古墳墳丘測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

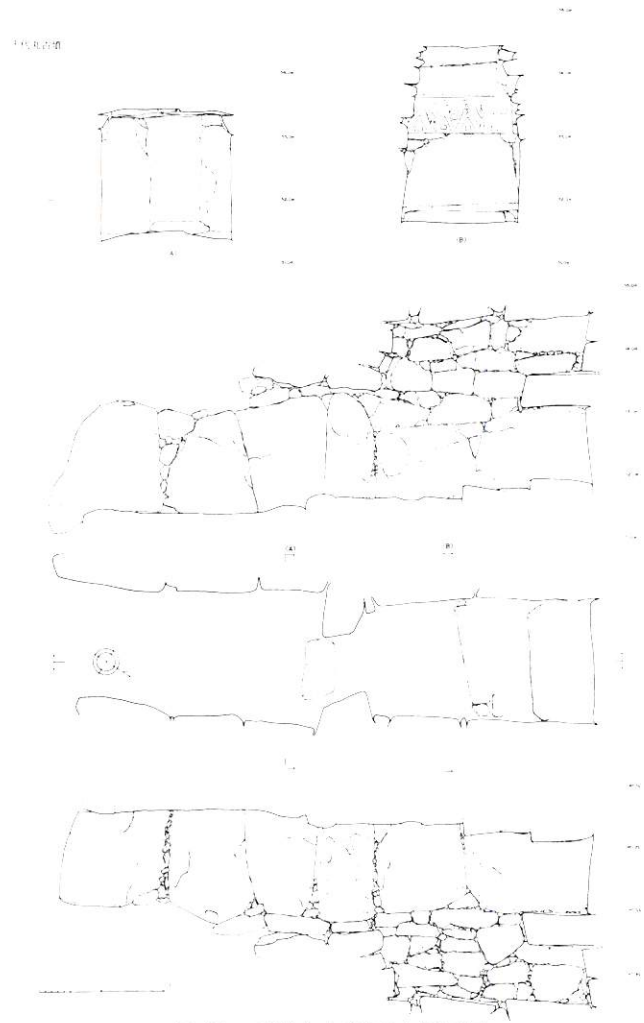


図25　千代丸古墳石室測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

千代丸古墳石棚の線刻

石室前から

玄室（入口部より）

千代丸古墳玄室

国東半島の装飾古墳

国東半島は瀬戸内海に向かって大きく張り出しており、古くから海上交通の要衝として大和政権との結び付きが指摘されています。

伊美鬼塚古墳

伊美鬼塚古墳は国東半島の北端、標高110メートル丘陵先端頂部に11基からなる西山古墳群のうちの１基として造られています。墳丘は南北13.4メートル、東西10.2メートルほどの楕円形をしています。周溝は馬蹄形と確認されています。石室は全長8.5メートルで単室構造の横穴式石室です。出土遺物から６世紀末頃に築造されたことが分かっています。

出土遺物は耳環、大刀、大刀金具、弓金具、鉄鏃、須恵器、土師器があります。

装飾は玄室の奥壁、左壁中央、右壁中央に線刻で描いています。このうち奥壁の装飾は二人の人物と櫓をもつ二艘の舟、中央上に樹木と木の葉があります。その他については後世の追刻などにより、はっきりとは分かりません。

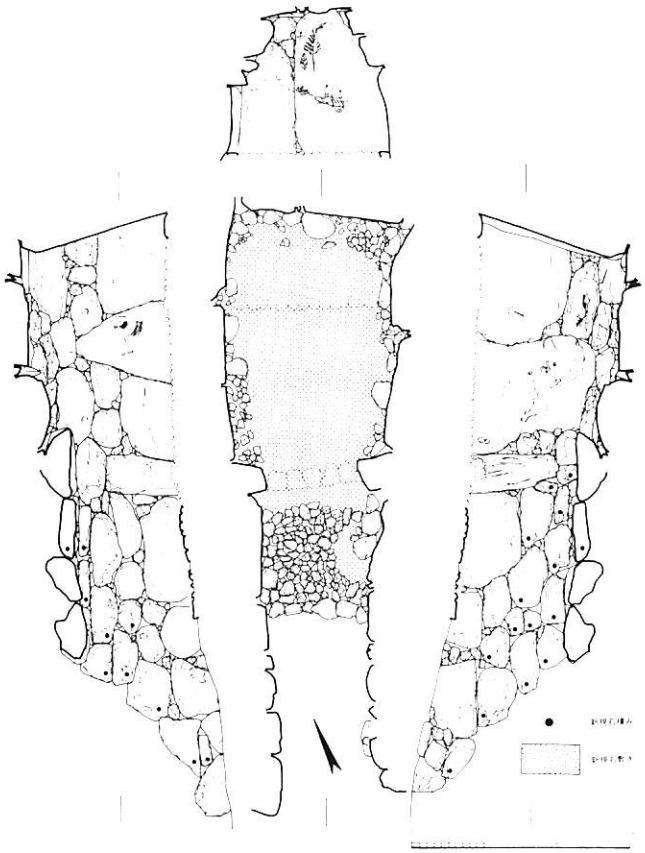


図27　伊美鬼塚古墳石室測量図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

伊美鬼塚古墳全景

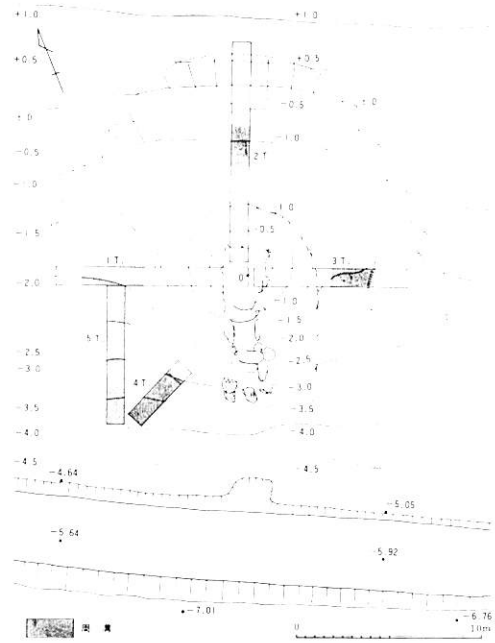


図26　伊美鬼塚古墳墳丘測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

須恵器

38

左側壁に幾艘かの舟と６羽の水鳥を描いています。

右側壁には向き合った２羽の鶏冠をもつ鳥を描いています。

このような線刻画は瀬戸内海近縁や山陰地方でも見ることができるので、それらの古墳との関係も考えられるでしょう。

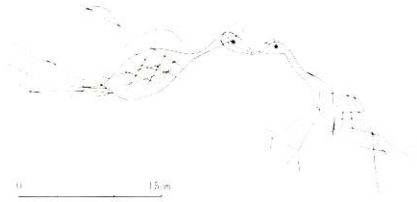


図 28　右側壁の線刻

大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

伊美鬼塚古墳玄室（部分）

図 30　奥壁の線刻

大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

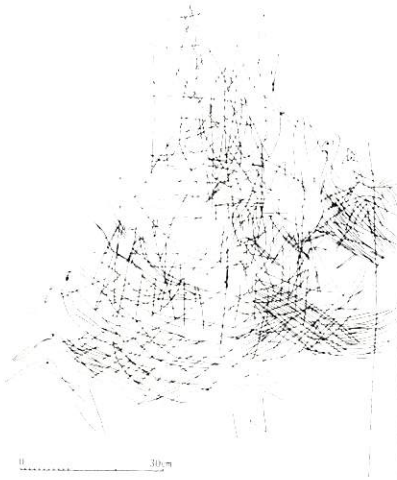
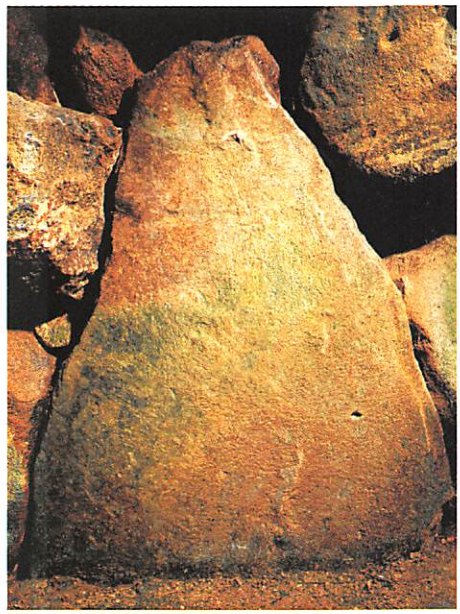
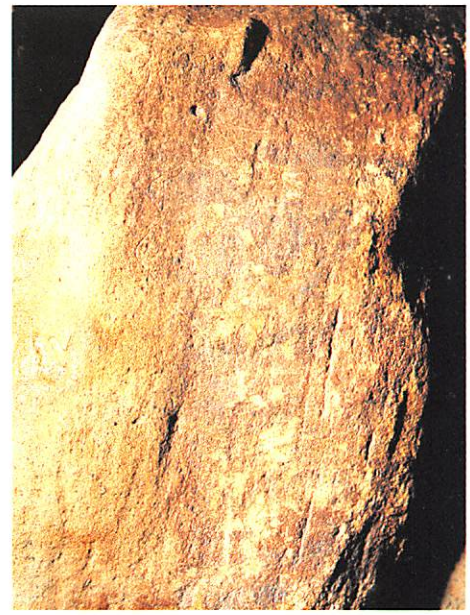


図 29　左側壁の線刻

大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載



伊美鬼塚古墳玄室左側壁（部分）



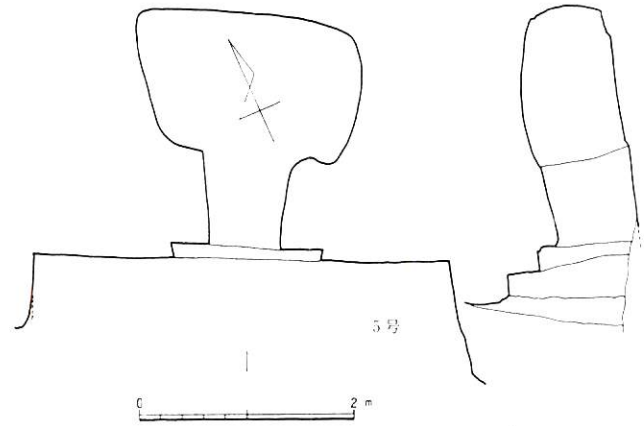
伊美鬼塚古墳玄室右側壁（部分）

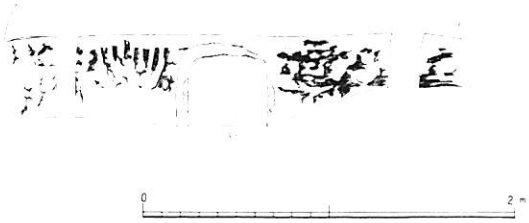
穴瀬横穴墓群

国東半島の基部、豊後高田市にある穴瀬横穴墓群は、21基の群で構成されています。この内、装飾を持つ横穴墓は2、4、5、7、16号墓です。いずれも羨門ないしは外壁に同心円文や並列縦線文などを赤で彩色しています。なかでも4、5号墓は装飾を外壁まで施しており、この群のなかでは中心的な存在であったことが考えられます。1号と10号は羨門全面を赤で彩色しており、群内で羨門に装飾文様を施したものと赤で彩色のみ施したものとの関係を今後、再検討していかなければならないでしょう。

図31　穴瀬横穴墓群測量図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

図32　第2号横穴墓測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載





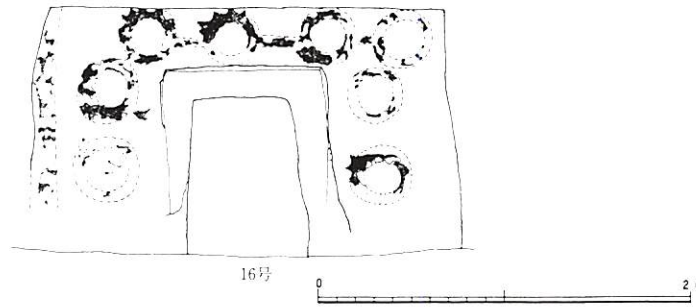
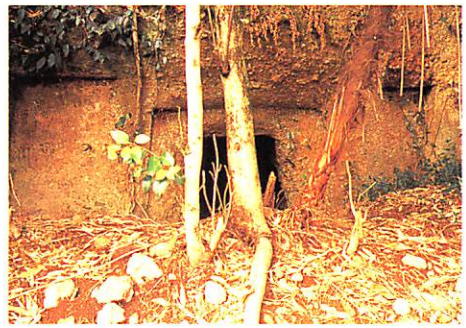


図33　4、5、16号横穴墓羨門の装飾　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

穴瀬横穴墓群 4 号墓



穴瀬横穴墓群 2 号墓

穴瀬横穴墓群 5 号墓

穴瀬横穴墓群 7 号墓

穴瀬横穴墓群 10 号墓

穴瀬横穴墓群 14 号墓

穴瀬横穴墓群 16 号墓

宇佐平野の装飾古墳

宇佐平野は大分県内最大を誇る穀倉地帯です。この地は宇佐八幡宮の荘園としても有名です。

大分県内の装飾を持つ横穴墓は、宇佐平野を中心に展開しています。

四日市横穴墓群（加賀山横穴墓群・一鬼手横穴墓群）

四日市横穴墓群は宇佐市の西部、台ノ原台地裾部の凝灰岩が露呈している崖面に造られています。出土遺物はありませんが、横穴墓の形から7世紀の前半から中頃にかけて造られたと考えられます。この横穴墓群は一鬼手横穴墓群と加賀山横穴墓群の2群に分けられます。

全景

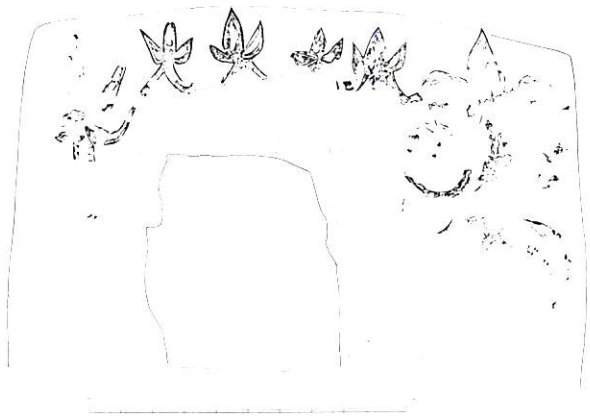


図34　加賀山40号横穴墓測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

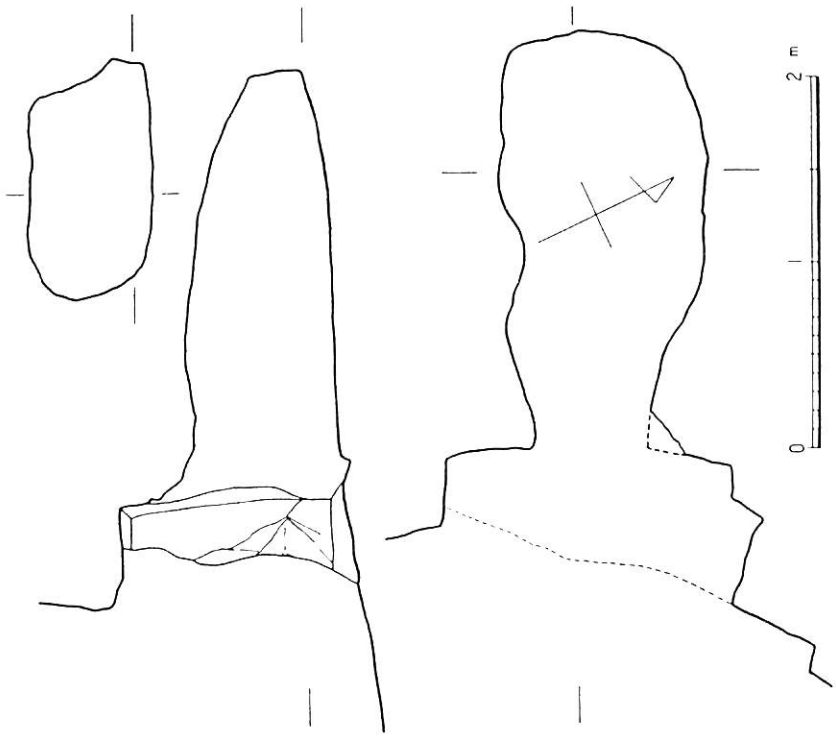


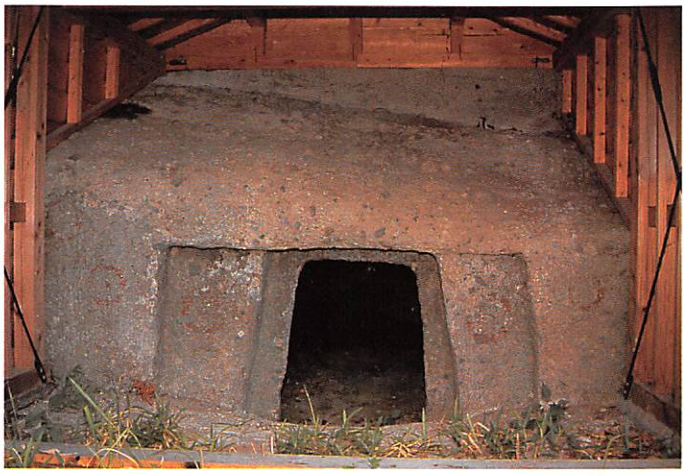
図35　加賀山40号横穴墓測量図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

加賀山横穴墓群 40 号墓

加賀山横穴墓群 40 号墓（部分）

一鬼手横穴墓群 62 号墓

一鬼手横穴墓群は現状では86基の横穴墓が確認されており、このうち62号墓にのみ装飾を施しています。全長4メートルあまりで、やや楕円状に掘り込んでいます。装飾は羨門の一番外側の正面と2番目の正面に赤で同心円文を描いています。本横穴墓も形態から7世紀前半頃造られたと考えられます。似たような装飾が熊本県玉名市ナギノ横穴墓群7号墓にあります。



一鬼手横穴墓群 62 号墓

加賀山横穴墓群 39・40 号墓

加賀山横穴墓群は現状では75基の横穴墓が確認されています。このうち39号墓と40号墓に装飾が見られます。

39号墓は羨門に赤で円文を描いています。

40号墓は全長2.5メートルで舌状に掘り込んでいます。装飾は羨門入り口部に黒で縁取りをしたカエデ葉状の文様の内側を赤で彩色しています。一部を意図的に塗っておらず、大分県の報告書では、人形の可能性も指摘されています。

40号墓の形態から、本横穴墓は7世紀中頃に造られたと考えられます。

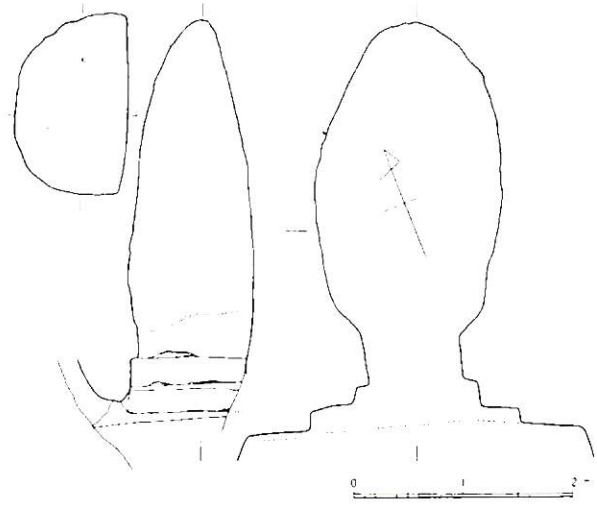


図 36　一鬼手 62 号横穴墓測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

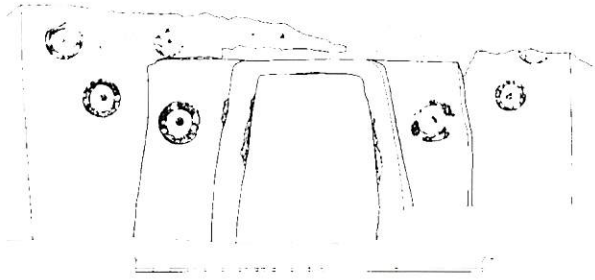


図 37　一鬼手 62 号横穴墓測量図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

貴船平下の裏山装飾横穴墓

貴船平下の裏山装飾横穴墓は宇佐市の西南、八面山から南北方向に派生する丘陵の凝灰岩が露呈する崖面に造られています。全体で70基以上の横穴墓があると推測されています。本横穴墓は全長約３メートルで羨門部を方形に枠取りをして舌状に掘り込んでいます。羨門部に黄色で化粧塗りを施し、その上から同心円文と六脚同心円文を描いています。急峻な崖面に僅かなテラスをもっています。

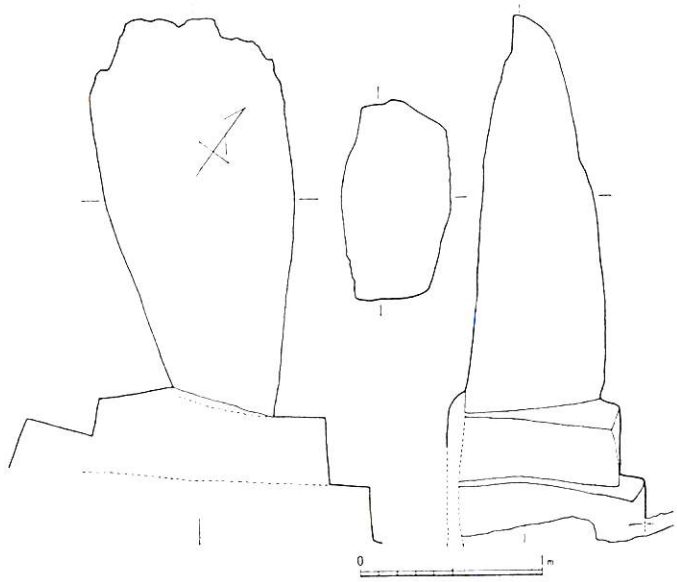


図 38　装飾横穴墓測量図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

貴船平下の裏山装飾横穴墓

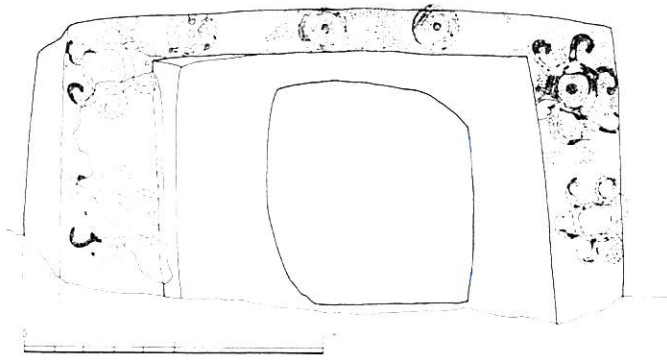


図 39　装飾横穴墓羨門の装飾　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

貴船平下の裏山装飾横穴墓（羨門右部分）

貴船平下の裏山装飾横穴墓（羨門右部分）

貴船平下の裏山装飾横穴墓（羨門上部分）

観音山横穴墓群A・B号墓

観音山横穴墓群は貴船平下の裏山装飾横穴墓から南へ1.5キロ入った丘陵台状突端の崖面にあります。総数は不明です。宇佐市教育委員会の調査で現在、A号墓とB号墓の2基が装飾を持つ横穴墓として確認されています。出土遺物はありませんが周辺の表採遺物から、7世紀前半頃造られたと考えられます。

A号墓は全長3.2メートルで羨門部を方形に枠取りしています。装飾は羨門正面に赤で円文を、右壁に弧状の文様を同じ赤で描いています。

B号墓は全長2.7メートルで羨門部を方形に枠取りしています。装飾は羨門正面に鉤状脚を表したような文様を赤で描いています。

また、右下にも僅かに赤が認められますが、文様は不明です。

図40　A号横穴墓測量図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

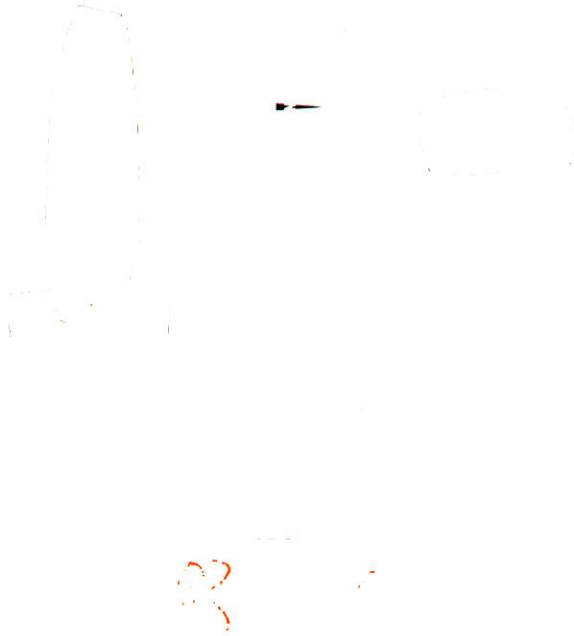


図41　B号横穴墓測量図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

39

須恵器壺（表採資料）

40

須恵器（表採資料）

宇佐市観音山横穴墓群Ａ号墓

宇佐市観音山横穴墓群Ｂ号墓

宇佐市観音山横穴墓群Ａ号墓（部分）

宇佐市観音山横穴墓群Ｂ号墓（部分）

水雲横穴墓群A・B・D号墓

水雲横穴墓群は宇佐郡院内町にあって、恵良川東岸、通称、城山と呼ばれる丘陵崖面にあります。町誌編纂にともなう現地調査で47基が確認されています。平成６年度の調査で２基について装飾が、もう２基について装飾のある可能性が指摘されています。今回、町教育委員会の立ち会いで現地確認の結果、Ｂ号墓について、装飾が確認できました。

Ａ号墓は全長2.8メートルで、羨門部左に円文を２個、赤で描いています。右にも赤が認められますが、文様は不明です。

Ｄ号墓は全長2.4メートルで羨門右にべた塗りの円文を描いています。

またＢ号墓の羨門上部にかなり薄くなっていますが、円文を描いています。

水雲横穴墓Ａ号墓（部分）

水雲横穴墓Ａ号墓

水雲横穴墓Ｂ号墓

水雲横穴墓Ｂ号墓（部分）

水雲横穴墓Ｄ号墓

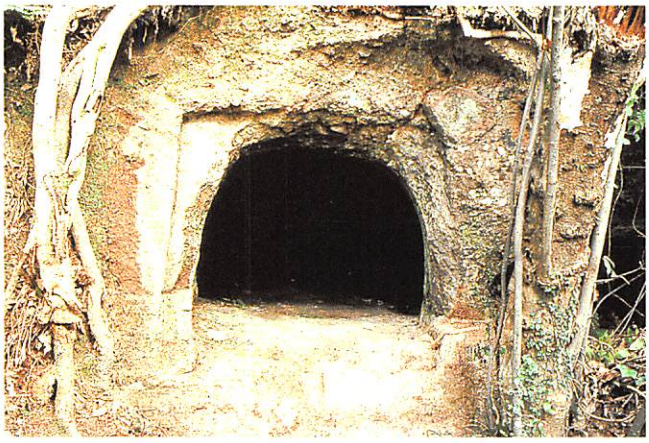
図42　Ａ号横穴墓実測図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

図43　Ｄ号横穴墓実測図
大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

中津平野の装飾古墳

城山装飾横穴墓

城山装飾横穴墓は中津市東部犬丸川東岸の丘陵上にあります。全長約３メートルで、羨門から１メートルほど掘り込んでから隅丸方形に広げています。羨門右に赤で杏仁形の文様を描いています。また右上に赤をべた塗りで三角文を描いています。左にも赤でコの字状文を描いています。造られた年代は出土した遺物や横穴墓の形態から６世紀末と考えられます。



城山装飾横穴墓羨門部装飾

図 44　装飾横穴墓測量図　大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載

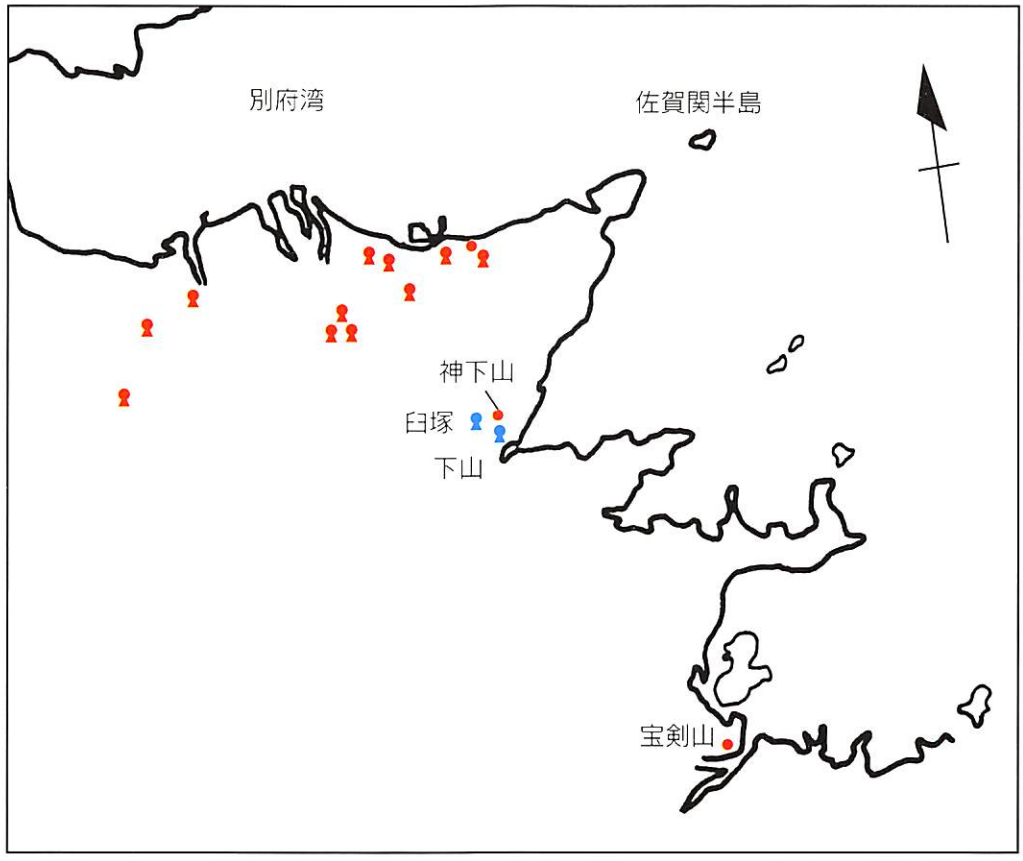
3　装飾をもつ石棺と石人

石人石馬は古くから考古学界では注目されてきました。出土が限られていること、その形態の特異性からも数多くの論文が書かれ、その起源から目的まで様々な説があります。ここではその謎を解き明かすだけの材料はありません。しかし、大分県内の石人と石棺系装飾古墳との関係について述べておきます。

大分県内には17カ所で装飾古墳が確認されています。それぞれいくつかの群として構成されていることが現在では分かってきています。

ところが、石棺系の装飾古墳はそのいずれとも異なり、現在の臼杵市にあたる極めて限られた地域においてのみ造られています。ここはかって海部（あまべ）が置かれていたところで、古墳時代前期から栄えていたところです。しかしこの地域は下山古墳が造られた頃から急速に勢力を失っていくようです。

また、この地域では、臼塚古墳と下山古墳に石人が造られています。この石人から、筑後川流域の八女の首長との関係も推測されますが、わずか２例のみであり、慎重な論議が必要でしょう。



石人をもつもの
もたないもの

図 45　県東部古墳分布図

臼杵の装飾古墳

臼塚古墳

先に述べたように石棺系装飾古墳は臼杵市にのみあります。

その系譜は、臼塚古墳、下山古墳、神下山古墳とつながっていくと考えられています。

臼塚（ネドツカ）古墳は熊崎川中流域の西側丘陵の南側に造られています。全長87メートル、後円部径45メートル、前方部幅45メートルをはかる前方後円墳で、主体部に舟形石棺を２基埋葬しておりその形態の違いから、時期差が考えられます。また石人も２基あり、作風に違いがみられ、製作の時期差が考えられます。装飾は石棺の上蓋に平行四辺形の浅い彫り込みで表現されています。

出土遺物から５世紀前半頃造られたと考えられます。

図46　臼塚古墳墳丘全体図

臼杵市教委提供

臼塚古墳石人

図47　臼塚古墳石人Ａ　　図48　臼塚古墳石人Ｂ

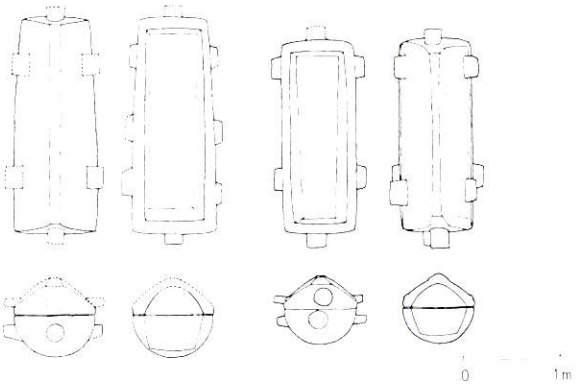


図49　臼塚古墳石棺

臼塚古墳石棺

臼塚古墳石棺

41

人物埴輪片（草摺部分）

42

短甲片

43

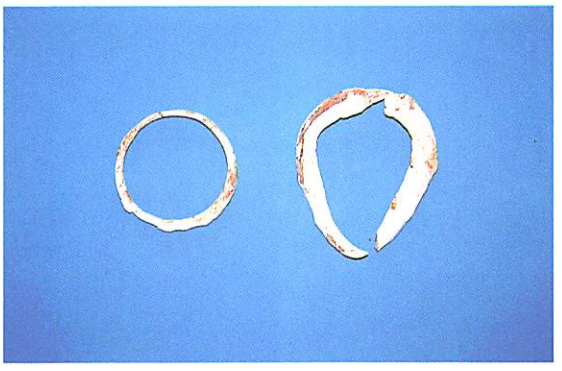
鉄鉾

44

位至三公双龍鏡（径 9.5 ㎝）

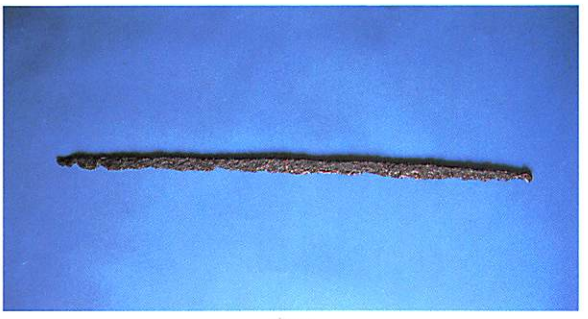
45

四獣鏡（径 9.5 ㎝）



46

貝釧



47

直刀

下山古墳

下山古墳は臼塚古墳の南東、下山の丘陵頂部、標高40メートルに造られています。

全長68メートル、後円部径46メートル、前方部幅37メートルの前方後円墳で、主体部に家形石棺を埋葬しています。装飾は石棺の上蓋に平行四辺形の浅い彫り込みで表現されています。

上部を欠損した石人をともなっています。

出土遺物から5世紀前半頃に造られたと考えられています。

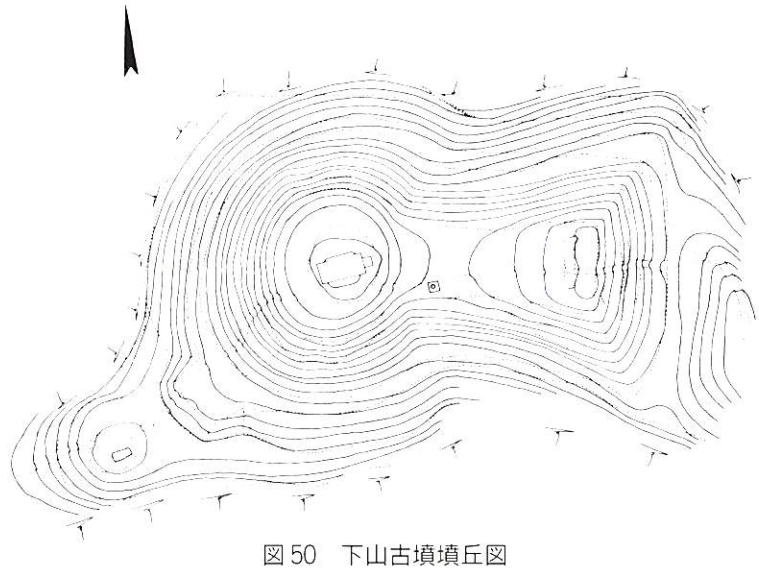


図50　下山古墳墳丘図

臼杵市教育委員会提供

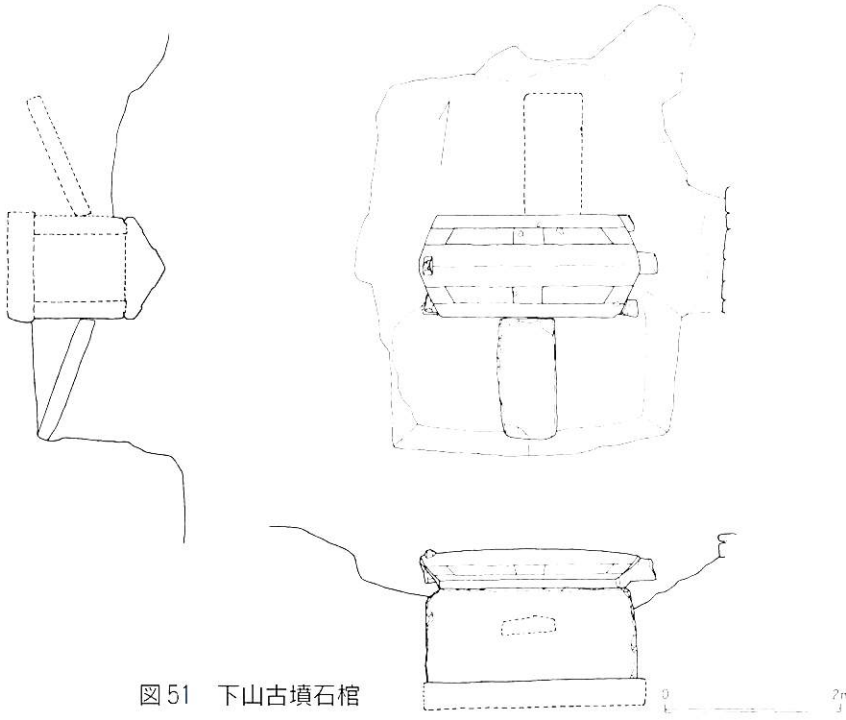


図51　下山古墳石棺

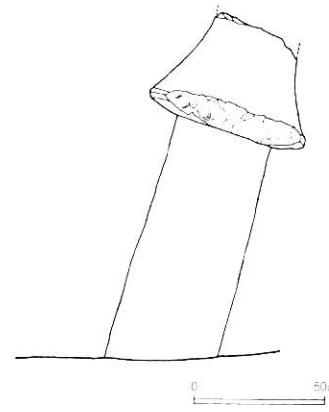
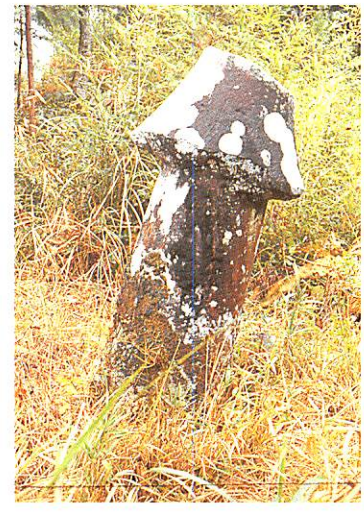


図52　下山古墳石人

下山古墳石棺



下山古墳石人

48

円筒埴輪

49

桃種

50

鉄剣

51

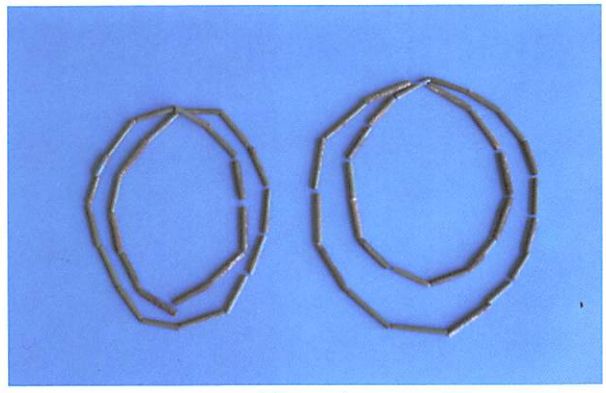
直刀

53

鉄斧

52

鉄鋌



54

管玉一式

神下山古墳

神下山古墳は34メートルの円墳で主体部に箱式石棺と凝灰岩製の家形石棺を埋葬しています。正式な調査が行われていないため、出土遺物はよく分かっていません。

装飾は、石棺の上蓋を長方形に区画するように線刻を施しています。

石棺系装飾古墳はこの神下山古墳を最後に大分県内では終焉を迎えます。今後の調査の結果が待たれます。

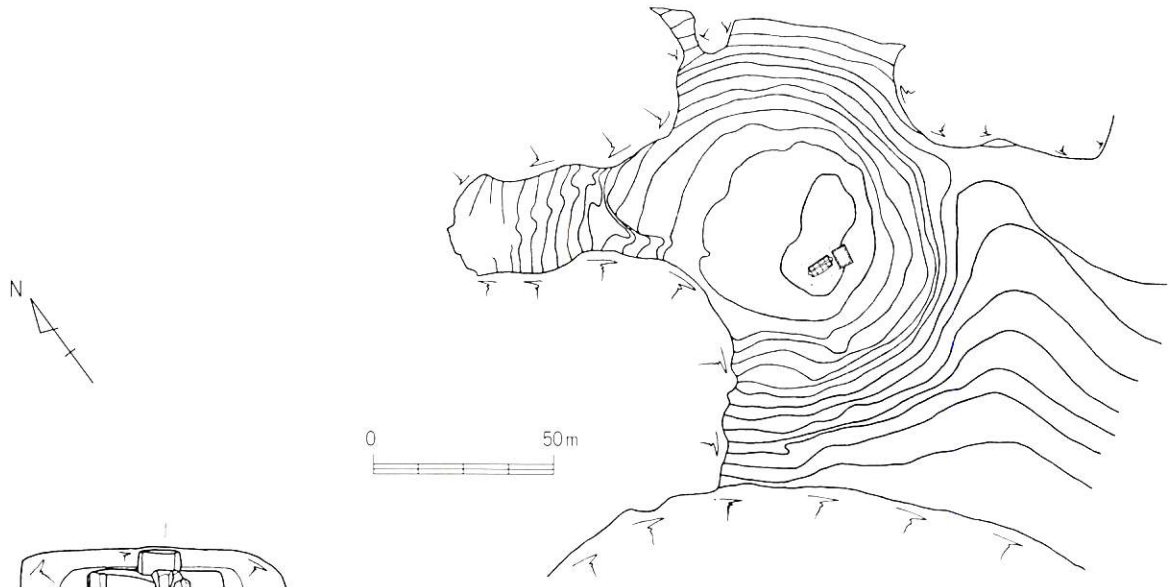


図53　神下山古墳墳丘図

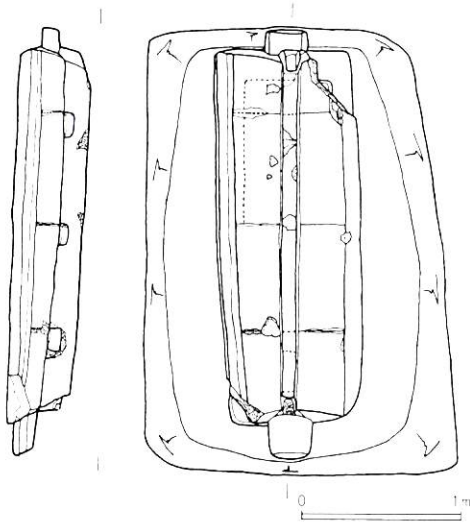


図54　神下山古墳石棺

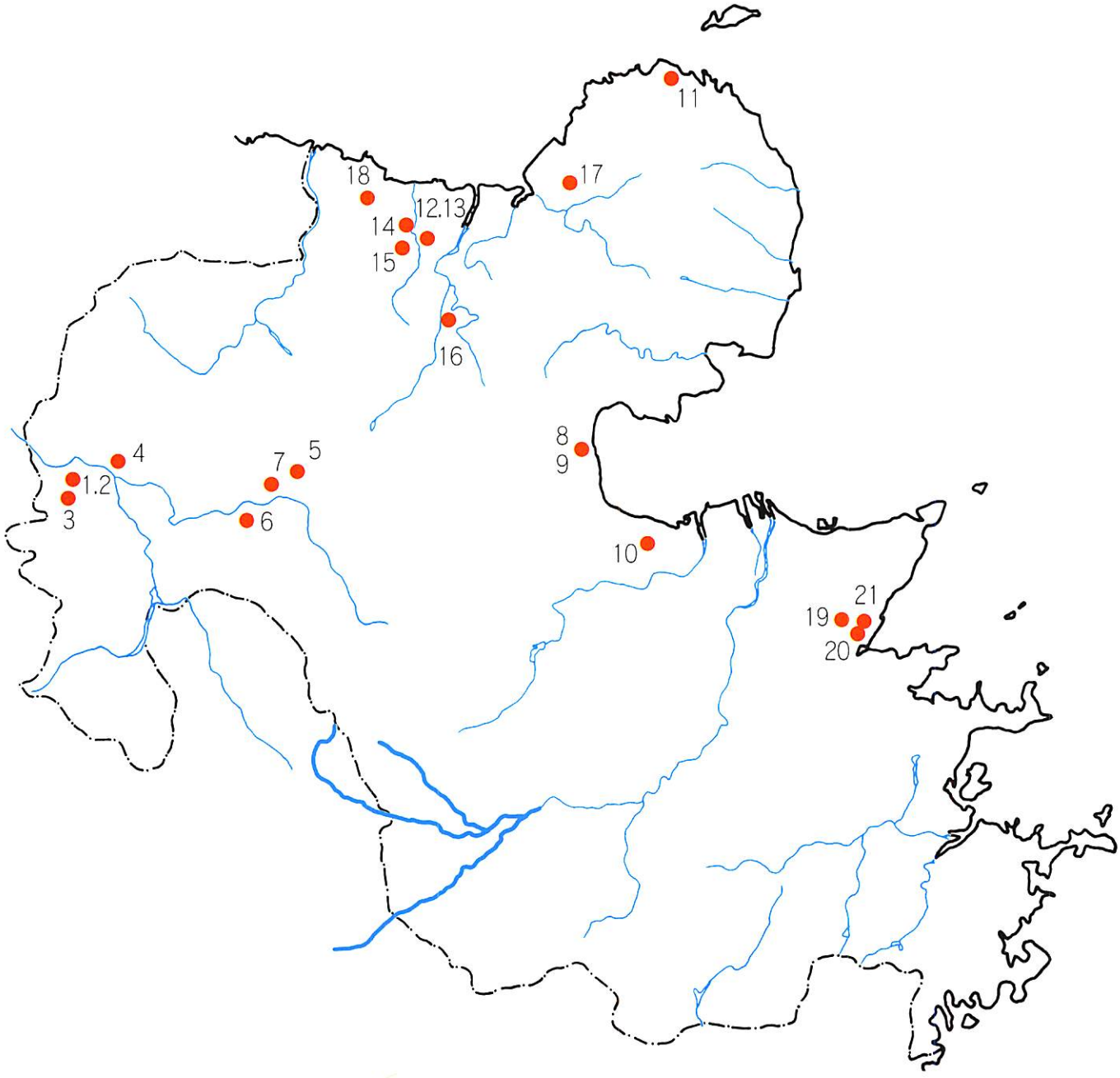
神下山古墳石棺

おわりに

この展示をご覧になって、
どのように思われたでしょうか。
装飾古墳が営まれていた時代が、
豊かな精神社会であった事が
お分かりいただけたのではないでしょうか。
装飾古墳館では、
これから足掛け８年にわたって、
全国の装飾古墳を
みなさまにご紹介していく事になっております。
どうぞ、来年もご来館いただけますよう
館員一同願っております。

平成８年10月１日

熊本県立装飾古墳館



大分県教育委員会編「大分の装飾古墳」より転載一部加筆

大分県内の装飾古墳一覧

No.	指定	名称	所在地	墳丘	構造(石室)	装飾の内容	所有者
1	国指定	**ガランドヤ１号墳**	日田市石井町字西の園1187	不明	横穴式石室	彩色・円文・人物・馬・舟・飛鳥ほか	日田市
2	国指定	**ガランドヤ２号墳**	日田市石井町字西の園1187	円墳	横穴式石室	彩色・騎馬人物・鋸歯文・円文	日田市
3	国指定	**穴観音古墳**	日田市大字内河野９	円墳	横穴式石室	彩色・円文・三角文・人物・舟・飛鳥	日田市
4	国指定	**法恩寺山３号墳**	日田市大字日高641ほか	円墳	横穴式石室	彩色・円文・同心円文・飛鳥・馬	日田市
5	県指定	**鬼ヶ城古墳**	玖珠町大字帆足1980	円墳	横穴式石室	彩色・木の葉ほか	地　区
6	県指定	**鬼塚古墳**	玖珠町大字小田910	不明	横穴式石室	彩色・円文・同心円文・人物・舟	個　人
7	未指定	**鷹巣横穴墓群４号墓**	玖珠町大字帆足字鷹巣		横穴墓	彩色・円文・人物？	個　人
8	国指定	**鬼の岩屋１号墳**	別府市大字北石垣172	円墳	横穴式石室	彩色・鋸歯文・靫ほか	別府市
9	国指定	**鬼の岩屋２号墳**	別府市大字北石垣132－1	不明	横穴式石室	彩色・円文・三角文・蕨手文ほか	別府市
10	国指定	**千代丸古墳**	大分市大字宮苑字千代丸595－4	円墳	横穴式石室	線刻・連続三角文・人物・動物	大分市
11	国指定	**伊美鬼塚古墳**	国見町大字中2428－1	円墳？	横穴式石室	線刻・舟・人物・群鳥・樹木ほか	国見町
12	国指定	**四日市横穴墓群**(加賀山横穴墓群39・40号墓)	宇佐市大字四日市字加賀山		横穴墓	彩色・杏仁形文・円文	宇佐市
13	国指定	**四日市横穴墓群**(一鬼手横穴墓群62号墓)	宇佐市大字四日市字一鬼手		横穴墓	彩色・同心円文	宇佐市
14	県指定	**貴船平下の裏山装飾横穴墓**	宇佐市大字山下・上元重		横穴墓	彩色・同心円文・六脚輪状文	個　人
15	未指定	**観音山横穴墓群Ａ・Ｂ号墓**	宇佐市大字上元重字観音山		横穴墓	彩色・同心円文	個　人
16	未指定	**水雲横穴墓群Ａ・Ｂ・Ｄ号墓**	院内町大字上副字水雲		横穴墓	彩色・円文・舟?	個　人
17	県指定	**穴瀬横穴墓群２・４・５・７・16号墓**	豊後高田市大字美和・上屋敷		横穴墓	彩色・円文	個　人
18	未指定	**城山装飾横穴墓**	中津市大字伊藤田字城山		横穴墓	彩色・円文	個　人
19	県指定	**臼塚古墳**	臼杵市大字稲田字林・西平	前方後円墳	舟形石棺	線刻・平行四辺形	神社地 (石人は国の重文)
20	国指定	**下山古墳**	臼杵市大字諏訪字下山	前方後円墳	家形石棺	線刻・平行四辺形	個　人
21	未指定	**神下山古墳**	臼杵市大字諏訪字・神下	円墳	家形石棺	線刻・長方形	地　区

出品目録

1	赤塚古墳		宇佐市
	獣文帯三神三獣鏡・レプリカ	1点	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
2	葛原遺跡		宇佐市
	甑	1点	宇佐市教育委員会
3	葛原遺跡		宇佐市
	平底椀	1点	宇佐市教育委員会
	甕（小）	1点	〃
	有孔甕（小）	1点	〃
	甕（中）	1点	〃
	丸底椀	1点	〃
4	葛原遺跡		宇佐市
	坩	1点	宇佐市教育委員会
	台付椀	1点	〃
	平底椀	2点	〃
	丸底椀	2点	〃
	平底甕（中）	1点	〃
	丸底甕	1点	〃
5	葛原遺跡		宇佐市
	須恵器（高坏）	1点	宇佐市教育委員会
	須恵器（有孔甕）	2点	〃
	須恵器（平底鉢）	1点	〃
	須恵器（平底椀）	1点	〃
	須恵器（坏身）	1点	〃
6	葛原遺跡		宇佐市
	ジョウロ形土器	1点	宇佐市教育委員会
7	葛原遺跡		宇佐市
	土錘	1点	宇佐市教育委員会
	土製玉	3点	〃
8	葛原遺跡		宇佐市
	鉄製鍬先	1点	宇佐市教育委員会
9	ガランドヤ1号墳		日田市
	須恵器（坏蓋・坏身）	1点	日田市教育委員会
	須恵器（高坏）	1点	〃
	須恵器（短頸壺）	1点	〃
	須恵器（蓋付短頸壺）	1点	〃
	須恵器（甕）	1点	〃
	須恵器（提瓶）	1点	〃
10	ガランドヤ1号墳		日田市
	馬具（轡）	1点	日田市教育委員会
	馬具（飾り金具）	4点	〃
	馬具（鉸具）	1点	〃
	馬具（鞍金具）	1点	〃
11	ガランドヤ1号墳		日田市
	鉄鏃	9点	日田市教育委員会
12	ガランドヤ1号墳		日田市
	ガラス小玉	5点	日田市教育委員会
	ガラス丸玉	1点	〃
	管玉	2点	日田市教育委員会
	耳環（金銅製）	3点	〃
	耳環（銀製）	2点	〃
13	ガランドヤ2号墳		日田市
	須恵器（平瓶）	1点	日田市教育委員会
14	ガランドヤ2号墳		日田市
	須恵器（甕口縁部）	1点	日田市教育委員会
	須恵器（坏片）	1点	〃
15	ガランドヤ2号墳		日田市
	馬具（飾り金具）	2点	日田市教育委員会
	馬具（鉸具）	1点	〃
16	ガランドヤ2号墳		日田市
	鉋	1点	日田市教育委員会
	平鑿	1点	〃
17	ガランドヤ2号墳		日田市
	直刀（鍔付き）	1点	日田市教育委員会
18	ガランドヤ2号墳		日田市
	鉄鏃	3点	日田市教育委員会
19	ガランドヤ2号墳		日田市
	珠文鏡	1点	日田市教育委員会
20	ガランドヤ2号墳		日田市
	ガラス小玉一式	52点	日田市教育委員会
	滑石製臼玉	1点	〃
	土製練玉	2点	〃
	ガラス玉	4点	〃
	水晶製切子玉	2点	〃
	耳環（金銅製）	3点	〃
	耳環（金製）	1点	〃
21	法恩寺山4号墳		日田市
	須恵器（高坏）	3点	日田市教育委員会
	須恵器（甕）	1点	〃
	須恵器（提瓶）	1点	〃
22	法恩寺山4号墳		日田市
	須恵器（脚付き壺）	2点	日田市教育委員会
23	法恩寺山4号墳		日田市
	須恵器（提瓶）	1点	日田市教育委員会
24	法恩寺山4号墳		日田市
	須恵器（提瓶）	1点	日田市教育委員会
25	法恩寺山4号墳		日田市
	馬具（轡）	1点	日田市教育委員会

	馬具（飾り金具）	2点	日田市教育委員会
	馬具（鉸具）	2点	〃
	馬具（留め具）	1点	〃
26	法恩寺山4号墳		日田市
	馬具（鈴雲珠）	1点	日田市教育委員会
27	法恩寺山4号墳		日田市
	直刀	1点	日田市教育委員会
28	法恩寺山4号墳		日田市
	変形五獣鏡	1点	日田市教育委員会
29	法恩寺山4号墳		日田市
	耳環（金銅製）	2点	日田市教育委員会
	管玉	6点	〃
	小玉	72点	〃
	切子玉	3点	〃
	算盤玉	1点	〃
30	鷹巣横穴墓群（前庭部出土）		玖珠町
	須恵器（高坏）	1点	玖珠町教育委員会
	須恵器（坏蓋・身）	2点	〃
	須恵器（甑）	1点	〃
	須恵器（坩）	1点	〃
	須恵器（提瓶）	1点	〃
31	鷹巣横穴墓群（前庭部出土）		玖珠町
	高坏	2点	玖珠町教育委員会
	坏身	1点	〃
	短頸壺	1点	〃
32	鷹巣4号横穴墓		玖珠町
	鉄鏃	3点	玖珠町教育委員会
33	鷹巣3号横穴墓		玖珠町
	鉄鏃	1点	玖珠町教育委員会
34	鷹巣4号横穴墓		玖珠町
	馬具（轡）	1点	玖珠町教育委員会
	馬具（環状金具）	1点	〃
	馬具（留め具）	5点	〃
	馬具（鉸具）	3点	〃
	馬具（雲珠）	2点	〃
	馬具（部位不明）	7点	〃
35	鷹巣4号横穴墓		玖珠町
	銅釧	1点	玖珠町教育委員会
	耳環（銀製）	1点	〃
	ガラス切子玉	2点	〃
	ガラス玉一式	43点	〃
36	鬼の岩屋古墳群周辺出土		別府市
	須恵器（坏蓋・身）	1点	別府市教育委員会
	須恵器（甑）	1点	〃
	須恵器（平瓶）	1点	〃
	須恵器（壺）	1点	別府市教育委員会
	須恵器（提瓶）	1点	〃
	須恵器（樽形甑）	1点	〃
37	鬼の岩屋2号墳		別府市
	須恵器（坏身）	1点	
38	伊美鬼塚古墳		国見町
	須恵器（高坏）	1点	国見町教育委員会
	須恵器（坏蓋・身）	1点	〃
	須恵器（坏身）	1点	〃
	須恵器（蓋付坩）	1点	〃
	須恵器（平瓶）	2点	〃
39	観音山横穴墓群（表採資料）		宇佐市
	須恵器（壺）	1点	宇佐市教育委員会
40	観音山横穴墓群（表採資料）		宇佐市
	須恵器（甕口縁片）	1点	宇佐市教育委員会
	須恵器（壺口縁片）	1点	〃
	須恵器（坏片）	1点	〃
41	臼塚古墳		臼杵市
	埴輪片	1点	臼杵神社
42	臼塚古墳		臼杵市
	短甲片	4点	臼杵神社
43	臼塚古墳		臼杵市
	鉄鉾	1点	臼杵神社
44	臼塚古墳		臼杵市
	位至三公双龍鏡	1点	臼杵神社
45	臼塚古墳		臼杵市
	四獣鏡	1点	臼杵神社
46	臼塚古墳		臼杵市
	貝釧	2点	臼杵神社
47	臼塚古墳		臼杵市
	直刀	1点	臼杵神社
48	下山古墳		臼杵市
	円筒埴輪	1点	臼杵市教育委員会
49	下山古墳		臼杵市
	桃種	5点	臼杵市教育委員会
50	下山古墳		臼杵市
	鉄剣	3点	臼杵市教育委員会
51	下山古墳		臼杵市
	直刀	3点	臼杵市教育委員会
52	下山古墳		臼杵市
	鉄鋌	6点	臼杵市教育委員会
53	下山古墳		臼杵市
	鉄斧	2点	臼杵市教育委員会
54	下山古墳		臼杵市
	管玉一式	2点	臼杵市教育委員会

掲載写真一覧

No.	資料名	ネガ所有（保管）者	撮影者	頁
1	玖珠町鬼塚古墳奥壁	大分県教育委員会	石丸　洋	表紙
2	宇佐市赤塚古墳出土獣文帯三神三獣鏡レプリカ	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	3
3	宇佐市赤塚古墳全景	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館		4
4	臼杵市臼塚古墳石棺	臼杵市教育委員会		〃
5	大分市千代丸古墳石棺	大分県教育委員会		〃
6	宇佐市葛原遺跡出土甑	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	6
7	〃　葛原遺跡出土土師器	〃	〃	〃
8	〃　葛原遺跡出土土師器	〃	〃	〃
9	〃　葛原遺跡出土須恵器	〃	〃	〃
10	〃　葛原遺跡出土ジョウロ形土器	〃	〃	〃
11	〃　葛原遺跡出土土錘・土製玉	〃	〃	〃
12	〃　葛原遺跡出土鉄製鋤先	〃	〃	〃
13	日田市穴観音古墳全景	大分県教育委員会		8
14	〃　法恩寺山３号墳	〃		〃
15	〃　ガランドヤ１号墳全景	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
16	〃　ガランドヤ２号墳	大分県教育委員会		〃
17	〃　ガランドヤ１号墳出土須恵器	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	10
18	〃　ガランドヤ１号墳出土馬具	〃	〃	〃
19	〃　ガランドヤ１号墳出土鉄鏃	〃	〃	〃
20	〃　ガランドヤ１号墳出土装身具	〃	〃	〃
21	〃　ガランドヤ１号墳奥壁	〃	〃	11
22	〃　ガランドヤ１号墳奥壁（部分）	大分県教育委員会		〃
23	〃　ガランドヤ１号墳奥壁（部分）	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
24	〃　ガランドヤ１号墳仕切石（左側）	大分県教育委員会		〃
25	〃　ガランドヤ１号墳仕切石（右側）	〃		〃
26	〃　ガランドヤ２号墳出土須恵器（平瓶）	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	12
27	〃　ガランドヤ２号墳出土須恵器	〃	〃	〃
28	〃　ガランドヤ２号墳出土馬具	〃	〃	〃
29	〃　ガランドヤ２号墳出土鉈・平鑿	〃	〃	〃
30	〃　ガランドヤ２号墳出土直刀	〃	〃	〃
31	〃　ガランドヤ２号墳出土直刀（鍔部分）	〃	〃	〃
32	〃　ガランドヤ２号墳出土鉄鏃	〃	〃	〃
33	〃　ガランドヤ２号墳出土珠文鏡	〃	〃	〃
34	〃　ガランドヤ２号墳出土装身具	〃	〃	〃
35	〃　ガランドヤ２号墳奥壁	大分県教育委員会	石丸　洋	13
36	〃　ガランドヤ２号墳奥壁（部分）	〃	〃	〃
37	〃　穴観音古墳玄室（前室から望む）	〃	〃	15
38	〃　穴観音古墳玄室奥壁	〃	〃	〃
39	〃　穴観音古墳玄室右側壁	〃	〃	〃
40	〃　穴観音古墳前室右側壁（部分）	〃	〃	〃
41	〃　穴観音古墳全室左側壁（部分）	〃	〃	〃
42	〃　法恩寺山４号墳出土須恵器	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	16
43	〃　法恩寺山４号墳出土須恵器（脚付壺）	〃	〃	〃
44	〃　法恩寺山４号墳出土須恵器（提瓶）	〃	〃	〃
45	〃　法恩寺山４号墳出土須恵器（提瓶）	〃	〃	〃
46	〃　法恩寺山４号墳出土馬具	〃	〃	〃
47	〃　法恩寺山４号墳出土馬具（鈴雲珠）	〃	〃	〃
48	〃　法恩寺山４号墳出土直刀	〃	〃	〃
49	〃　法恩寺山４号墳出土五獣鏡	〃	〃	〃
50	〃　法恩寺山４号墳出土装身具	〃	〃	〃
51	〃　法恩寺山３号墳前室から玄室を望む	大分県教育委員会	石丸　洋	17
52	〃　法恩寺山３号墳奥壁	〃	〃	〃
53	〃　法恩寺山３号墳玄室右側壁	〃	〃	〃
54	〃　法恩寺山３号墳玄室右側壁	〃	〃	〃
55	〃　法恩寺山３号墳まぐさ石	〃	〃	〃
56	玖珠町鬼ヶ城古墳正面	〃		18
57	〃　鬼塚古墳全景	〃		〃
58	〃　鷹巣横穴墓群全景	〃		〃
59	〃　鬼ヶ城古墳	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	19
60	〃　鬼ヶ城古墳玄室左側壁	九州歴史資料館	石丸　洋	〃
61	〃　鬼塚古墳前室から玄室を望む	大分県教育委員会	石丸　洋	20
62	〃　鬼塚古墳玄室	〃	〃	〃
63	〃　鬼塚古墳玄室右側壁	〃	〃	21
64	〃　鬼塚古墳右側袖石	〃	〃	〃
65	〃　鬼塚古墳玄室右側壁（部分）	〃	〃	〃
66	〃　鬼塚古墳玄室左側壁（部分）	〃	〃	〃
67	〃　鬼塚古墳玄室左側壁（部分）	〃	〃	〃
68	〃　鷹巣横穴墓群４号墓奥壁	〃	〃	22
69	〃　鷹巣横穴墓群４号墓右側壁	〃	〃	〃
70	〃　鷹巣横穴墓群出土須恵器（前庭部出土）	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
71	〃　鷹巣横穴墓群出土土師器（前庭部出土）	〃	〃	〃
72	〃　鷹巣横穴墓群４号墓出土鉄鏃	〃	〃	〃
73	〃　鷹巣横穴墓群３号墓出土鉄鏃	〃	〃	〃
74	〃　鷹巣横穴墓群４号墓出土馬具	〃	〃	〃

75	玖珠町鷹巣横穴墓群4号墓出土装身具	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	22
76	別府市鬼の岩屋1号墳	〃	〃	23
77	〃　鬼の岩屋2号墳	〃	〃	〃
78	〃　鬼の岩屋古墳群周辺出土遺物	〃	〃	〃
79	〃　鬼の岩屋1号墳前室から後室を望む	大分県教育委員会	石丸　洋	25
80	〃　鬼の岩屋1号墳右側壁	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
81	〃　鬼の岩屋1号墳右側壁	〃	〃	〃
82	〃　鬼の岩屋1号墳前室右側壁	〃	〃	〃
83	〃　鬼の岩屋2号墳出土須恵器（坏身）	〃	〃	26
84	〃　鬼の岩屋2号墳玄室屍床	大分県教育委員会	石丸　洋	27
85	〃　鬼の岩屋2号墳玄室右側壁	〃	〃	〃
86	〃　鬼の岩屋2号墳玄室左側壁	〃	〃	〃
87	〃　鬼の岩屋2号墳左袖石	〃	〃	〃
88	〃　鬼の岩屋2号墳左袖石（部分）	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
89	〃　鬼の岩屋2号墳屍床（部分）	大分県教育委員会	石丸　洋	〃
90	〃　鬼の岩屋2号墳	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
91	大分市千代丸古墳全景	大分県教育委員会		28
92	〃　千代丸古墳玄室	〃	石丸　洋	29
93	〃　千代丸古墳石室前から	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
94	〃　千代丸古墳石棚の線刻	大分県教育委員会	石丸　洋	〃
95	〃　千代丸古墳玄室（入口部より）	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
96	国見町伊美鬼塚古墳全景	〃	〃	30
97	〃　伊美鬼塚古墳出土須恵器	〃	〃	〃
98	〃　伊美鬼塚古墳玄室（部分）	大分県教育委員会	石丸　洋	31
99	〃　伊美鬼塚古墳玄室左側壁（部分）	〃	〃	〃
100	〃　伊美鬼塚古墳玄室右側壁（部分）	〃	〃	〃
101	豊後高田市穴瀬横穴墓群2号墓	〃		33
102	〃　穴瀬横穴墓群4号墓	〃	石丸　洋	〃
103	〃　穴瀬横穴墓群5号墓	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
104	〃　穴瀬横穴墓群7号墓	大分県教育委員会	石丸　洋	〃
105	〃　穴瀬横穴墓群10号墓	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
106	〃　穴瀬横穴墓群14号墓	〃	〃	〃
107	〃　穴瀬横穴墓群16号墓	〃	〃	〃
108	宇佐市四日市横穴墓群全景	大分県教育委員会		34
109	〃　加賀山横穴墓群40号墓	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	35
110	〃　加賀山横穴墓群40号墓（部分）	〃	〃	〃
111	〃　鬼手横穴墓群62号墓	〃	〃	〃
112	〃　貴船平下の裏山装飾横穴墓	〃	〃	36
113	〃　貴船平下の裏山装飾横穴墓（羨門右部分）	〃	〃	〃
114	〃　貴船平下の裏山装飾横穴墓（羨門右部分）	〃	〃	〃
115	〃　貴船平下の裏山装飾横穴墓（羨門上部分）	〃	〃	〃
116	〃　観音山横穴墓群出土須恵器壺（表採資料）	〃	〃	37
117	〃　観音山横穴墓群出土須恵器（表採資料）	〃	〃	〃
118	〃　観音山横穴墓群A号墓	〃	〃	38
119	〃　観音山横穴墓群A号墓（部分）	大分県教育委員会		〃
120	〃　観音山横穴墓群B号墓	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
121	〃　観音山横穴墓群B号墓（部分）	大分県教育委員会		〃
122	〃　水雲横穴墓群A号墓	〃	石丸　洋	39
123	〃　水雲横穴墓群A号墓（部分）	〃	〃	〃
124	〃　水雲横穴墓群B号墓	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	〃
125	〃　水雲横穴墓群B号墓（部分）	〃	〃	〃
126	〃　水雲横穴墓群D号墓	〃	〃	〃
127	中津市城山装飾横穴墓羨門部装飾	大分県教育委員会		40
128	臼杵市臼塚古墳石人	臼杵市教育委員会		42
129	〃　臼塚古墳石棺	〃		〃
130	〃　臼塚古墳石棺	〃		〃
131	〃　臼塚古墳出土人物埴輪（草摺部分）	〃	坂口圭太郎	43
132	〃　臼塚古墳出土短甲片	〃	〃	〃
133	〃　臼塚古墳出土鉄鋌	〃	〃	〃
134	〃　臼塚古墳出土位至三公双龍鏡	〃	〃	〃
135	〃　臼塚古墳出土四獣鏡	〃	〃	〃
136	〃　臼塚古墳出土貝釧	熊本県立装飾古墳館	〃	〃
137	〃　臼塚古墳出土直刀	〃	〃	〃
138	〃　下山古墳出土円筒埴輪	〃	〃	44
139	〃　下山古墳石棺	臼杵市教育委員会		〃
140	〃　下山古墳石人	〃		〃
141	〃　下山古墳出土桃種	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	45
142	〃　下山古墳出土鉄剣	〃	〃	〃
143	〃　下山古墳出土直刀	〃	〃	〃
144	〃　下山古墳出土鉄鋌	〃	〃	〃
145	〃　下山古墳出土鉄斧	〃	〃	〃
146	〃　下山古墳出土管玉一式	〃	〃	〃
147	〃　神下山古墳石棺	臼杵市教育委員会		46
148	竹田市市用横穴墓群	熊本県立装飾古墳館	坂口圭太郎	55
149	〃　市用横穴墓群	〃	〃	〃
150	〃　市用横穴墓群	〃	〃	〃
151	宇佐市貴船平下の裏山装飾横穴墓	〃	〃	（裏表紙）

参考文献

1　賀川光夫「東九州における装飾古墳」『別府大学紀要３』・1953年
2　賀川光夫・小田富士雄他『大分県日田市法恩寺山古墳』日田市教育委員会・1959年
3　賀川光夫他「古墳文化の祭器」別府市文化財保存会・1959年
4　小林行雄編『装飾古墳』1964年
5　斎藤　忠編『古墳壁画』「日本原始美術」1965年
6　賀川光夫『大分県の考古学』1971年
7　大分県教育委員会編『大分県の文化財』1971年
8　斎藤　忠『日本装飾古墳の研究』1973年
9　後藤宗俊・小倉正五他『宇佐地区圃場整備関係発掘調査概報』宇佐市教育委員会　1978年
10　森貞次郎『装飾古墳』1985年
11　坂田邦洋他「鬼の岩屋第二号ノ壁画ニツイテ」『別府大学紀要』第26号・1985年
12　小柳和宏他『ガランドヤ古墳群』日田市教育委員会・1986年
13　坂田邦洋他「鬼の岩屋第一号ノ壁画ニツイテ」『別府大学紀要』第27号・1986年
14　甲斐忠彦他『古墳文化の世界』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館・1988年
15　村上和久他『鷹巣横穴墓群』玖珠町教育委員会・1993年
16　後藤一重他『大分県　埋蔵文化財年報３』大分県教育委員会・1993年
17　国立歴史民俗博物館編『装飾古墳の世界』1993年
18　渋谷忠章・村上久和・小柳和宏・綿貫俊一・山田拓伸他『大分の装飾古墳』大分県教育委員会・1995年
19　小田富士雄編『風土記の考古学』４　豊後国風土記の巻・1995年

協力機関・協力者一覧（アイウエオ順）

院内町教育委員会・宇佐市教育委員会・臼杵市教育委員会・臼杵神社・臼杵市図書館・大分県教育委員会・大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館・九州歴史民俗資料館・玖珠町教育委員会・国見町教育委員会・竹田市教育委員会・中津市教育委員会・日田市教育委員会・豊後高田市教育委員会・別府市教育委員会

石丸洋・上鶴美輝・大久保謙一郎・小倉正五・河野典之・菊田徹・城戸誠・小柳和宏・佐藤祐二・渋谷忠章・杉山魁・高崎章子・土居和幸・長尾和利・永野康洋・林一也・稗田健司・真野和夫・行時志郎

補足資料

竹田市市用所在の市用横穴墓群は現在、11基が確認されています。凝灰岩の崖面に造られており、その内3基の横穴墓の羨門部が赤で全面に塗られています。

豊後高田市の穴瀬横穴墓群における1・10号墓の装飾の施し方と同じ事から両者に関連性があるのか、今後検討していかなければならないでしょう。

平成８年度後期企画展
【全国の装飾古墳２】

大分県の装飾古墳

平成８年10月

発行・熊本県立装飾古墳館
〒861-05 熊本県鹿本郡鹿央町岩原3085
TEL 0968-36-2151 FAX 0968-36-2120

印刷・株式会社ハタノ
〒860 熊本市上熊本２丁目１－30
TEL 096-356-6433

貴船平下の裏山装飾横穴墓

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第 8 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：大分県の装飾古墳
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2018 年 6 月 1 日